

渺ナカラス殊ニ小學校寄宿舎新築ニ當リテハ其ノ材料ヲ霧社ヨリ數里隔テタルマヘボ社ノ狩獵地ヨリ伐木シ之ヲ肩ニ擔キテ運搬セシメタルコト及是等ノ出役ニ對スル賃銀支拂ノ遲延等ニ依リ蕃人ノ不平高潮シ近來ハ出役ニ應セサル者スラアルニ至レリ

一、然ルニ十月七日マヘボ社ニ於テ結婚祝ノ酒宴ヲ爲セルトキ偶々造材ノ爲マヘボ山ニ入ラムトスル吉村巡查等ニ會シ酒ヲ獎メタル處相互ノ誤解ヨリ同巡查トモ一ナルダオノ長男ダダオモ一ナトノ間ニ爭鬪ヲ惹起シタル爲常ニ官憲ヨリ猜疑ノ眼ヲ以テ視ラレツツアリト自覺セルモ一ナルダオハ今回ノ事件ヲ機會トシテ官憲ヨリ嚴罰ニ處セラレムコトヲ恐レ居タリ

一、偶々ホーゴ一社蕃丁ピホサツポナル者アリ其ノ父ハ明治四十三年警察官ヲ殺害シタルタメ同社ハ燒拂ヲ受ケ父モ亦之ニ死シタルコトアリテ内地人ヲ敵視スルコト甚タシク之ニ加フルニ大正十四年頃

萬大社へ養子トナリシカ本年十月中旬頃離縁トナリテホーゴ一社ニ歸來シタルタメ蕃人ノ習俗ニ從ヒ讖首ノ意思ヲ有シタルカ二十六日夜半二三ノ仲間ト語ラヒ内地人ヲ殺サムト決意シマヘボ社ニ赴キタル處モ一ナルダオハピホサツポヲ煽動シテ先ツ杉浦マヘボ駐在巡查ヲ殺サシメ遂ニ之ヲ機會トシテ附近ノ内地人全部ヲ殺サムトシテ今回ノ事變ヲ惹起セリ

六、被害狀況

一、今回ノ兇行ハ過去ノ經驗ニ於テ事前ニ相談計畫ヲ爲ストキハ官ノ覺ルトコロトナリ失敗ニ終ルヲ常トスルニヨリモ一ナルダオハ突如トシテ兇行ヲ敢行セムトシ不平ノ底流セル各蕃社之ニ應シタルモノト認メラル

騷擾區域内在留者五百五十八名ニシテ内死亡百三十名、生死不明七名、生存四百二十一名ナリ

昭和期Ⅰ第一部第四卷 日付索引

昭和五年（一九三〇）一月

事項番号	文書番号	日付	電信番号	発信者	件名	頁
七	778	昭和五年一月(2)日	一	在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)	上海臨時法院問題に関する列国交渉委員協議結果我が方へ随時内報方について	957
七	779	昭和五年一月(3)日	七	在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)	英中間での治外法権問題交渉開始に際し英国側意向に関するランブソン英国公使との会談報告	957
七	755	昭和五年一月(3)日	一	在中国堀臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)	国民政府の治外法権撤廃命令に対する我が国方針確定方請訓	933
七	756	昭和五年一月(4)日	五	在上海重光総領事より幣原外務大臣宛(電報)	英国は治外法権問題を中心に対中国政策で指導的地位を確立せんと看取されるについて	933
四	240	昭和五年一月5日	一六	在上海重光総領事より幣原外務大臣宛(電報)	小幡公使任命問題に關し我が方希望貫徹困難により同公使に代る適任者を選び時局に対応した交渉方急務なる旨意見上申	321
四	241	昭和五年一月(6)日	一八	在上海重光総領事より幣原外務大臣宛(電報)	中国国定税率導入の延期に努力すべく本省で詮議方意見具申	322
三	189	昭和五年一月6日	機密二	在安東宇佐美領事より幣原外務大臣宛	中国海關の安東滿鉄付屬地内密輸入防止用出張所開設要求を拒否経緯につき関東長官宛報告	259
一	1	昭和五年一月9日	機密公一九	在鄭家屯遠山領事代理より幣原喜重郎外務大臣宛	洮索鉄道の敷設状況について	1
四	243	昭和五年一月10日	六	幣原外務大臣より在上海重光総領事宛(電報)	関稅条約交渉至急開始方訓令	323

四	六	四	四	七	四	四	四	一	四	五	四	六	六	四	四								
252	460	251	250	841	249	247	248	2	246	380	245	459	458	244	242								
昭和5年1月17日	昭和5年1月17日	昭和5年1月17日	昭和5年1月17日	昭和5年1月17日	昭和5年1月16日	昭和5年1月16日	昭和5年1月16日	昭和5年1月15日	昭和5年1月15日	昭和5年1月14日	昭和5年1月14日	昭和5年1月11日	昭和5年1月11日	昭和5年1月11日	昭和5年1月10日								
公一	一七	公一五	公一四	公一一	公七	五二	六二	機密公二四	一八		五五	本機密七	機密公二二	三三	四								
幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛（電報）	幣原外務大臣宛（電報） 在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛（電報）	幣原外務大臣宛（電報） 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛（電報）	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛（電報）	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛（電報） 付記 昭和四年十二月二十六日作成 一 對支文化事業ニ関スル支那公使申出ノ件一	在上海重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛（電報） 別電 一月十六日発在中國重光臨時代理公使より 王正廷が関税問題は困難にあらず現行税率を急激に変更する意向なく釐金の 廃止方も講じつつありと述べたことについて	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報） 別電一 一月十六日着在南京上村領事より幣原外務大臣宛第五三三号 海関金單位制を二月一日より実施との国民政府明令 二 一月十六日着在南京上村領事より幣原外務大臣宛第五四号 海関金單位制に關する總稅務司への中國財政部訓令	在上海重光總領事より 幣原外務大臣宛（電報） 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報） 海関金單位制導入による對中國貿易への影響 につき横竹商務參事官報告	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛 中國固有鐵道貨物等級表の改訂により外國資 本による中國國內生産品にも運賃差別実施に ついて	幣原外務大臣より 在上海重光總領事宛（電報） 付記 作成年月日不明 在上海高木陸郎 内外債整理關係ニ就キテ	東亞興業株式会社内田より 谷亜細亞局第一課長宛 債務整理問題を日中通商條約交渉に入る絶對 条件となさず関稅協定問題と關連並行させ交 渉を進めるとの意向を債權者側に發出につい て	在上海重光總領事より 幣原外務大臣宛（電報） 付記 六月十七日付滿鉄チチハル公所長より滿鉄交渉部長宛電報齊公情第四九号 黒龍江省国民党支部の工作狀況について 王外交部長との會談に際し関稅問題以外の懸 案につき我が方意向を示方請訓	在チチハル清水領事より 幣原外務大臣宛 国民党黒龍江省支部設置運動の現状について 国民党中央によるモンゴル王族會議開催につ いて	在鄭家屯遠山領事代理より 幣原外務大臣宛 重光の臨時代理公使就任につき王外交部長滿 足の意表明について	幣原外務大臣より 在南京上村領事宛（電報） 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報） 小幡アグレマン問題と切離して重光を臨時代 理公使に就任させた旨王部長へ申入れ方訓令	別電 一月十日發幣原外務大臣より在上海重光總領事宛第七号 交換公文の形式を採り税率等で中國側に譲歩も可なるについて 付記 一月十一日付通商局作成 「日本国及支那國間關稅條約案」								
339	601	338	337	1046	1046	336	335	333	333	332	334	493	332	492	331	601	600	600	599	331	323	326	325

七	六	一	四	七	四	四	六	三	七	七	四		四	一	四	四	七	七	七	四
844	462	4	260	759	259	258	461	190	758	843	257		256	3	255	254	816	842	757	253
昭和5年1月23日	昭和5年1月22日	昭和5年1月22日	昭和5年1月22日	昭和5年1月22日	昭和5年1月22日	昭和5年1月22日	昭和5年1月21日	昭和5年1月21日	昭和5年1月21日	昭和5年1月21日	昭和5年1月21日		昭和5年1月21日	昭和5年1月20日	昭和5年1月20日	昭和5年1月20日	昭和5年1月18日	昭和5年1月18日	昭和5年1月18日	昭和5年1月18日
	機密公三四	機密公五四	二五	五四	公四三	公四〇	機密公二一	三ノ二	七二	公三八	公三		公二八		公二六	公二	六五	公二一	四	公二
有田亜細亜局長より 汪中国公使宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国堀内公使館参事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在上海重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在滿州里田中領事より 幣原外務大臣宛	太田関東長官より 幣原外務大臣宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)		幣原外務大臣宛(電報)	陸境関稅債務整理等関稅協定基礎六項目	全滿地方委員連合会議長より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)
中国側の東方文化事業に関する現行協定廃止 並びに義和団事変賠償金返還方提議に關し応諾 出来ない旨回答	国民政府内政部による外国人の中国人名義に よる土地永租禁止令について	エドガー・スノウとの会談において東北から 日本勢力駆逐には交通路建設が必須と張学良 談話について	奉天商工會議所では海関金單位制の導入を重 要視していない状況について	ジョンソン米国新公使到着後治外法權問題等 の交渉再開と予想されるについて	国民政府工商部容喙の可能性もあり関稅問題 の早期妥結で宋部長と合意について	関稅協定稅率をめぐる交渉状況につき報告	昨年十一月ソ連軍のハイラル占領とモンゴル 兵の同市警備の状況について	関東庁の密輸入取締問題調査員稅務司ベルに よる安東滿鉄付屬地内中国海關出張所開設要 請に対する応酬振りについて	中国雜誌所載の田中上奏文問題につき周龍光 と談話内容吉林石射総領事に回答	義和団賠償金返還問題交渉に関する今日まで の経過につきランブソン英国公使の談話報告	関稅率に關する交渉方につき訓令	四 一月二十一日着在中國重光臨時代理公使より 基礎項目に対する宋部長意見	三 一月二十一日着在中國重光臨時代理公使より 基礎項目説明	二 一月二十一日着在中國重光臨時代理公使より 品目表	別電一 一月二十一日着在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	付記 一月十七日 三浦領事稿「關東州外鐵道沿線警察權ニ關スル件」	満鉄地方行政權のみの關東庁移管に反対する 旨の全滿地方委員連合会決議	満鉄地方行政權のみの關東庁移管に反対する 旨の全滿地方委員連合会決議	閣稅問題のみ分離して解決することに日中間 で意見一致の旨報告	閣稅問題のみ分離して解決することに日中間 で意見一致の旨報告
1048	604	8	353	935	352	351	602	261	934	1047	349		344	5	5	343	1015	1047	934	340

四	272	昭和5年1月(26)日	公七五	在中国重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	別電一 一月二十六日着在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛公第七六号 関稅稅率に関する合意案	373
五	381	昭和5年1月25日	公六三	在中国重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	宋子文に対し債権者會議の至急開催等三点を申入れたるも宋が財政難を理由に暗に交渉延期方要求について	495
四	271	昭和5年1月25日	公二一	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理(公使宛)(電報)	関稅率交渉より綿糸統一稅問題の分離方訓令	367
四	270	昭和5年1月(25)日	公六九	在中國重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	関稅品目数の協定率据置期間延長を提示により交渉遅延の虞ある故現状の日中間意見相違を前提に最終案回示方請訓	366
四	358	昭和5年1月(25)日	公六五	在中國重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	綿糸統一稅は関稅の他に内地産品と同一額を賦課するものとの宋子文の説明について	467
四	269	昭和5年1月(25)日	公六二	在中國重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	関稅協定成立に際し宋財政部長が内地稅全廃に難色を示したるについて	364
四	357	昭和5年1月24日	公一一	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理(公使宛)(電報)	綿糸統一稅導入の場合輸入稅に上乘せして課稅するや否や確認回電方訓令	467
六	463	昭和5年1月24日	三一	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	北寧線収入より葫蘆島築港資金捻出說について	605
				四 一月二十四日発在中國堀内公使館参事官より幣原外務大臣宛第七〇号 協定に関するコメント	965	
				三 一月二十五日着在中國堀内公使館参事官より幣原外務大臣宛第六九号 関係諸国既存權利留保に関する一方的宣言	965	
				二 一月二十五日着在中國堀内公使館参事官より幣原外務大臣宛第六八号 交換公文案	963	
七	780	昭和5年1月(24)日	六六	在中國堀内公使館参事官より 幣原外務大臣宛(電報)	別電一 一月二十五日着在北平堀内公使館参事官より幣原外務大臣宛第六七号 上海臨時法院新協定案	960
四	268	昭和5年1月24日	公一五	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理(公使宛)(電報)	陸境特惠関稅につき最低三年据置主張方訓令	363
四	267	昭和5年1月24日	公一四	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理(公使宛)(電報)	関係国代表者会合における臨時法院新協定および付屬交換公文の了承について	959
四	266	昭和5年1月24日	公一三	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理(公使宛)(電報)	関稅協定品目数承認並びに据置期間延長方訓令	362
四	265	昭和5年1月24日	公一二	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理(公使宛)(電報)	関稅協定税率をめぐり中国側態度緩和の兆あるも従前からの方針にて交渉方訓令	361
四	264	昭和5年1月(24)日	公五五	在中國重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	関稅協定税率をめぐりこれ以上の譲歩は困難として宋財政部長最終案提出について	358
四	263	昭和5年1月24日	公五二	幣原外務大臣宛(電報)	関稅問題に関する日本側交渉方針	357
四	262	昭和5年1月(23)日	公五二	在中國重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	宋子文との関稅問題交渉進行に際し外交部の動向に留意しつつある旨南京領事宛通報	356
四	261	昭和5年1月(23)日	公四七	在中國重光臨時代理(公使より) 幣原外務大臣宛(電報)	関稅協定税率をめぐる一月二十二日交渉報告	354

四	284	昭和5年2月1日	一三	幣原外務大臣より 在南京上村領事宛(電報)	国民政府の意向確認の上関税協定急速妥結す およびその際治外法権交渉商議準備を通知す るも可なる旨訓令	390
六	467	昭和5年1月31日	機密公五〇	幣原外務大臣宛 在長春田代領事より	東北におけるマツチ業界の現状に関し報告	608
四	283	昭和5年1月31日	公六二	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	関税協定交渉進捗のため在南京上村領事をして 王外交部長と意志疎通を計らしめる様訓令	390
四	282	昭和5年1月31日	公一一八	幣原外務大臣宛(電報)	南京における中国側会議では関税協定を秘密 公文としたき意見が多数を占めたことについて	389
四	281	昭和5年1月31日	公一一七	幣原外務大臣宛(電報)	治外法権問題に関する条項を関税協定へ挿入 方徐謨欧米司長主張の旨報告	385
四	359	昭和5年1月29日	公五六	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	綿糸統一税に対する中国側留保は内地通過税 廃止に関する取極の趣旨より反対故内地課税 問題は後日に譲り当業者の私的契約の範疇で 交渉方訓令	467
四	280	昭和5年1月29日	公五一	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	税率協定は条約正文中に保存したきもやむを えぬ場合交換公文とするも可なる旨訓令	385
六	466	昭和5年1月29日	四一	幣原外務大臣宛(電報)	中東鉄道交渉に関する南京政府と張学良間心 接ぶりについての情報	607
四	279	昭和5年1月29日	九八	幣原外務大臣宛(電報)	王外交部長は関税協定の分離締結に反対の意 向につき注意が必要について	384
七	845	昭和5年1月29日		有田亜細亜局長 会談	東方文化事業問題に関する会談要旨	1049
四	278	昭和5年1月28日	公九一	幣原外務大臣宛(電報)	関税協定をめぐる日中間の相違点に関し宋財 政部長と確認について	383

四	277	昭和5年1月28日	公八八	幣原外務大臣宛(電報)	関税協定に対する王外交部長の反対点につき 宋子文談話について	381
六	465	昭和5年1月27日	関機高収 一四五九ノ一	中谷関東庁警務局長心得より 吉田外務次官他宛	張学良の閩錫山との提携説否定について	606
三	191	昭和5年1月27日	亜二機密四	幣原外務大臣より 在安東宇佐美領事宛	安東満鉄付属地内中国海關出張所開設承認の 旨回訓	262
四	276	昭和5年1月27日	公三五	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	海関金单位制の導入は現行条約に違反の嫌疑 あるも関税協定交渉に資するため黙認方訓令	377
四	275	昭和5年1月27日	九二	幣原外務大臣宛(電報)	新国定税率の導入は七月一日公布とし釐金の 廃止と同時に十月十日実施との新聞報道につ いて	376
四	274	昭和5年1月26日	公八一	幣原外務大臣宛(電報)	旧正月まで宋子文との交渉纏らねば協定税率 白紙化の惧れある故現状での妥協方意見具申	376
六	464	昭和5年1月26日	三八	幣原外務大臣宛(電報)	葫蘆島築港資金のベルギー銀行団との借款仮 契約成立との張弧談について	606
四	273	昭和5年1月26日	公三〇	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	関税条約の急速妥結方訓令	374
五	382	昭和5年1月26日	公八〇	幣原外務大臣宛(電報)	宋子文が債権者会議の日取明示方に関し財政 難を理由に難色を示したことについて	496
				三 釐金廃止に伴う交換公文案(2)	一月二十六日着在中國重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛公第七八号	374
				二 釐金廃止に伴う交換公文案(1)	一月二十六日着在中國重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛公第七七号	373

四	300	昭和5年2月22日	公一一九	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	413
四	301	昭和5年2月22日	公一一一	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	414
四	299	昭和5年2月(22)日	公三三九	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	409
六	476	昭和5年2月21日	一一七	在中國大橋公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國大橋公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	630
六	475	昭和5年2月20日	機密公 一四四	在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛	628
四	363	昭和5年2月(19)日	公三二二	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	472
五	386	昭和5年2月18日	公三二六	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	499
四	362	昭和5年2月(18)日	公三二五	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	471
五	385	昭和5年2月17日	公三二六	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	499
六	474	昭和5年2月15日	三二六 三二七 三二八	關機高取 中谷關東庁警務局長心得より 吉田外務次官他宛	關機高取 中谷關東庁警務局長心得より 吉田外務次官他宛	627
四	361	昭和5年2月15日	一〇八	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	470
七	783	昭和5年2月(14)日	一一一	在中國堀内公使館參事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國堀内公使館參事官より 幣原外務大臣宛(電報)	968
五	384	昭和5年2月13日		對中國債權者組合幹部より 幣原外務大臣宛	對中國債權者組合幹部より 幣原外務大臣宛	497
四	298	昭和5年2月13日	一〇三	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	408
四	297	昭和5年2月10日	公九四	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	408
四	296	昭和5年2月(9)日	公一九四	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	407
一	6	昭和5年2月8日	五一 機密 一一一	在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	626
六	473	昭和5年2月8日	五一	在中國重光臨時代理公使宛	在中國重光臨時代理公使宛	468
四	360	昭和5年2月8日	公九三	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	407
四	295	昭和5年2月(8)日	公一八八	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	405

別電 二月八日着在中國重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛公第一八三号
関稅率据置期限をめぐつて對立宋財政部長は交渉の一時中止を申入れについ
て
関稅協定交渉続行の可否につき請訓
内外差別の撤廃および財政部と当業者間の契
約とする事で輸入綿糸の付加税徴収を容認す
るもなるべく中國内國課税権問題を棚上げし
て交渉方訓令
國民政府による葫蘆島築港借款承認について
中國固有鉄道貨物等級表の改訂は九カ国条約
違反に付中國政府に同表実施手控え勸告方訓
令
關稅協定を交換公文にて行ふ事に対し請訓
批准事項を交換公文中に挿入することは不可
なる旨訓令
我方至急対応決定できざる状況につき今一度
中國側讓歩を引き出すべく交渉方訓令
債務整理に關し中國政府をして速に債權者會
議開催方請願
上海臨時法院新協定を支持する趣旨の簡単な
取極をなすべしとの意見具申
綿糸統一税交渉に武居委員長参加を希望かつ
日本側官憲より同稅契約了承の趣旨を財政部
に伝達方懸望について
東北における日本人企業等の發展に關し商工
會議所提出の拓務省殖産局長に対する要望案
について
債務整理問題に關しては宋子文の感情に留意
する必要あり、また西原借款等機微なる問題
あるため新聞報道振りに注意方意見具申
綿糸統一税問題には深入りせず輸入綿糸に對
する中國側留保承認に關し請訓
債務整理問題に對して債權者代表は銀行家等
より選ぶのではなく宋子文との兼ね合いより
任命方意見具申
綿糸統一税問題を關稅協定交渉から切離し表
面的には當業者をして自発的に交渉方意見具
申
我が方の對東北農政を非難する國民政府農政
部の宣言書について
英國は葫蘆島築港借款に反対とのイングラム
の談話について
國民政府部内の反対多く宋財政部長が主張を
貫くことを得ざる状況について
民政党的絕對多數確保との總選挙結果を背景
に關稅協定交渉を有利に運ぶべく交渉方訓令
關稅協定に關し夏布の稅率協定期間陸境關稅
廃止予告期間等および綿糸統一税については
綿糸に限り課稅容認方訓令

七	四	六	六	四	六	六	四	六	五	五	四	六	六	四	七	四	四	六	四				
784	309	484	483	308	482	481	307	480	389	388	387	306	479	478	305	819	304	303	477	302			
昭和5年3月13日	昭和5年3月12日	昭和5年3月12日	昭和5年3月11日	昭和5年3月11日	昭和5年3月10日	昭和5年3月8日	昭和5年3月7日	昭和5年3月6日	昭和5年3月5日	昭和5年3月5日	昭和5年3月4日	昭和5年2月28日	昭和5年2月27日	昭和5年2月27日	昭和5年2月27日	昭和5年2月26日	昭和5年2月26日	昭和5年2月26日	昭和5年2月23日	昭和5年2月22日			
五四	公二九七	五一	二五四	公二八五	公二八五	機密公 一六〇	公二六二	三七	亜一機密 二二三	二二	官房秘丙 二八	公二二六	公信六九	七	公二五〇	機密二六五	公二四九	一九九	合三	公二四一			
幣原外務大臣より 在上海重光総領事宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在青島堀総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在南京上村領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛	河田大藏次官より 吉田外務次官宛	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛	幣原外務大臣より 在鐵嶺近藤領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在上海重光総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在芝罘内田領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)			
上海臨時法院新協定を事実上認めつつも加入 問題は治外法権問題商議の際に譲る旨訓令	日中関稅協定を三月十一日付とし十二日仮調 印の旨報告	東豫丸武器輸送に關し陸軍側に深甚なる注意 方促す様意見具申	日中関稅協定に關する閣議決定	第七東豫丸武器密輸送に關し陸軍側も關係者 無しとせず同件の処置に厳格詮議方意見具申	日中関稅協定に關する閣議決定	吉林省政府の金融經濟界不振救濟策通達につ いて	第七東豫丸抑留事件に対する措置振り回訓	王宋両部長と打合せの結果上海にて関稅協定 最終案作成の予定について	債權者代表の人选については差し当り三井大 村に塩余借款支払確保問題は興業銀行上海 駐在員上田省一等に依頼について	國民政府が寺内内閣時代の对中国借款を除外 又は差別的に取扱わんとする態度容認出来ぬ 次第を重光代理公使に訓電方要請について	債權者側の希望もあり債務整理基金年額五百 萬元の増加問題および塩余借款支払確保問題 に対し解決方訓令	現狀での関稅協定交渉妥結方意見具申	胡蘆島築港への英国側抗議に対するオランダ 契約会社の意向について	開原取引所における現大洋建併用開始につい て	税率協定期間三年等現狀での交渉妥結方訓令	山東省南端に入港の第七東豫丸が武器彈藥積 載により抑留中の旨海關監督より申出につい て	蔣介石主席が総選挙における民政党勝利に祝 詞傳達方報告	関稅協定期限問題妥協困難なれど現狀での協 定成立の用意ある旨宋財政部長言明について	大連海關を除いて外国人吏員の採用を停止し 海關内に中国人の増加を図りつつある狀況に ついて	日本政府は國民政府を承認しており閩錫山へ の武器輸出は事實無根の旨宋財政部長に言明 について			
969	425	635	634	423	634	633	422	421	419	418	633	503	501	500	418	632	631	417	1017	416	416	631	415

六	三	四	六	一	四	四	七	六	六	六	七	一	一	四	四	七	七	六	四			
596	192	314	551	9	313	364	820	488	487	486	786	8	7	312	311	846	785	485	310			
昭和5年4月5日	昭和5年4月(5)日	昭和5年4月4日	昭和5年4月(3)日	昭和5年3月31日	昭和5年3月(3)日	昭和5年3月29日	昭和5年3月28日	昭和5年3月28日	昭和5年3月26日	昭和5年3月25日	昭和5年3月(25)日	昭和5年3月24日	昭和5年3月(20)日	昭和5年3月(19)日	昭和5年3月(18)日	昭和5年3月17日	昭和5年3月(15)日	昭和5年3月13日	昭和5年3月13日			
二五九	三二二		二五三	一二七	公三六九	公三六五	機密一一四	二七	二二七	機密公 二二四	公三三八	機密公 二二一	公三三〇	公三二二	公三一八	公三一九	公三〇九	九七	合一一〇			
幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	付記 四月二十八日付通商局第二課 大阪川口商人引揚ノ原因ニ関スル件	在中国矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在廈門寺島領事より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在青島川越総領事宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)			
天津税関の接収もあり得るとの朱外交処長な どの談話について	国民政府財政部の新義州中国海関分局設置方 要請につき重光代理公使宛報告	金銀為替の変動を理由とする大阪川口商人の 引揚閉店について	朱鶴翔を中華民国陸海空軍総司令部外交署署 長に任命した旨の閣による申入れについて	方正延より吉会線強行敷設説の真偽取り調べ 方電訓に対する張学良の回答について	一時帰国の意向あるも治外法権等打合せ事項 多きため離任出来ざる故本省要部の派員方請 訓	綿糸統一税問題に対しては交渉を急ぐ必要な い旨当業者に注意喚起について	針内示方請訓	東豫丸武器輸送事件処分につき審理着手方訓 令	満鉄地方委員連合会の既得権現地保護などに 関する陳情書提出について	中国官憲による在留日本人側商工業の現状調 査方通令について	上海臨時法院新協定実施に際し差別的待遇な きよう法権問題解決の際何らかの取極必要と の意見具申	榑原農場に北陵新開架橋工事を承諾させたと の報告	鉄道運賃差別問題等につき王外交部長に申し 入れについて	王外交部長より治外法権問題等解決方申し入 れについて	関税協定交渉の結果より気付ききたる国民政府 状況に対する所見	王部長の義和団事変賠償金管理要求に対し現 行制度変更の手續困難なる旨を述べ其の貫徹 方不可能を暗示したことについて	上海臨時法院新協定の実質的運用につき王外 交部長との会談について	反駁回答について	三月十二日中日関税協定で合意について			
778	263	429	729	12	429	472	1021	1019	640	637	636	972	11	10	427	426	1050	972	635	425	970	969

三	六	四	七	三	六	四	四	五	五	七	四	四	六	四	七	四	五	七	七	五				
194	555	318	848	193	554	317	316	393	392	789	368	367	553	315	847	366	391	788	365	552	821	787	390	
昭和5年4月(26)日	昭和5年4月26日	昭和5年4月25日	昭和5年4月(24)日	昭和5年4月(24)日	昭和5年4月(23)日	昭和5年4月23日	昭和5年4月22日	昭和5年4月17日	昭和5年4月17日	昭和5年4月16日	昭和5年4月16日	昭和5年4月16日	昭和5年4月16日	昭和5年4月15日	昭和5年4月15日	昭和5年4月14日	昭和5年4月13日	昭和5年4月12日	昭和5年4月11日	昭和5年4月11日	昭和5年4月10日	昭和5年4月10日	昭和5年4月9日	
三七一	八四	公二一四	三六六	公四一五	二九五	二一〇	外一九	公四〇三	公四〇二	公信二九五	公四〇一	公四〇〇	三六	八	公三九五	条二機密 六七	公三九九	条二機密 六七	三三三	機密公八八	公信五三四	公一九八	公一九八	
在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国矢野公使館書記官宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	太田閣東長官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在天津岡本總領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在安東宇佐美領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在天津岡本總領事宛(電報)	武居在華日本紡績同業会委員長より 武富通商局長宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在天津岡本總領事宛	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在香港吉田總領事代理より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在上海重光總領事より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)
債務整理問題に關し中国側と接触する場合西 原借款の除外又は差別的整理につき何等コ ミットせざる等嚴重注意方訓令	上海特別区法院の外国人關係訴訟の審理振に 關する新聞報について	台湾籍発動機船の香港方面回航は密輸船の回 航と共に嚴重取締る様地方官憲に通達方台湾 總督府總務長官に依頼について	國務會議による人事異動決議について	謝作楮との會談において中国側意見が多少変 化したる旨船津よりの電報について	中国人を被告とする民事訴訟費徴収黙認方訓 令	債務整理は國民政府において極力財源の捻出 に腐心しおる際日本債権者側において西原借 款承認方露骨に高調せざる様意見具申	綿糸統一税に關し宋子文との會談につき船津 總務報告	東方文化事業中止に關する申出について	中国側において関稅協定成立後輸出附加稅徴 収開始するやも知れず内々手配方訓令	帰朝の際反蔣運動の様様承知したい旨訓令	綿糸統一税に關し國民政府側の保証が必要ま た交渉にあつては船津に全權を集中させる べきことについて	宋子文は綿糸統一税につき内外差別をしない 旨船津に談話について	華洋上訴案件に對し中国司法部では中国法令 に照らし各省法院で受理する様通令について	西原借款承認不承認の議論に捉われず整理資 金の増額に力を注ぐべき旨意見具申	國民政府が債務整理に支出可能な最大限額を 曾宗鑑内示について	輸出附加稅徴収につき中国側をして猶予期間 設定方訓令	中国側に関稅協定につき危惧の念を抱かせぬ 様留意して帰国方訓令	北平の陸海空軍總司令部外交処に對する応接 振りにつき請訓	國民政府財政部による新義州中国海關分局設 置要請の条約的根拠につき外交部當局に問合 せ方南京領事に要請	義和團賠償金を鐵道建設等の生産事業に充當 するとの返還協定内容に關するランプソン英 国公使の説明について	日中関稅協定成立と同時に輸出附加稅徴収さ れぬ様宋子文に考慮申入れ方訓令	閩側外交処への対応振りに關し各国の方針詳 細電報方訓令	國民政府の新義州中国海關分局設置の条約的 根拠につき國民政府國際司長の回答につき重 光代理公使宛報告	
264	731	434	1050	263	730	433	433	506	505	975	477	476	730	432	1050	475	504	974	473	730	1023	973	503	

四	六	七	七	二	六	六	六	六	二	六
322	602	849	822	176	558	601	600	599	175	598
昭和5年5月6日	昭和5年5月5日	昭和5年5月4日	昭和5年5月(4)日	昭和5年5月3日	昭和5年5月3日	昭和5年5月3日	昭和5年5月3日	昭和5年5月3日	昭和5年5月2日	昭和5年5月2日
	一四五	公四三九	四五八	一五一	三二九	三三〇	公四四二	八八	一四九	公四三三
日中関税協定	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)
日中関税協定	税関よりの銀行引揚げに伴い税関長自ら事務 を行う旨の税務司談話について	王外交部長が日本分義和団事交賠償金返還協 定草案を手交について	幣原外務大臣宛機密送第三七六号公信 漁獵ニ関スル外交書送達ノ件	浙江省東岸で操業の日本漁船は中国主権侵害 と外交部より覚書送付越しについて	我が方のハルビン日本総領事館投石犯人引き 渡し要求を中国側拒絶について	中国外交諸問題に対する閩側の動向につき朱 外交処長の外字記者との会谈要旨報告	閩による天津海関付加税差押えに抗議方外国 銀行代表者より各国公使への請願書について	天津海関付加税差押えおよびこれに対する天 津港閉鎖の断念を南北双方へ説示方意見申	ハルビン総領事館投石事件に対する中国側の 取り調べ状況について	閩による天津海関付加税差押えに対し南京側 として同海関閉鎖の腹案もあるとの宋財政部 長の内話について
.....	783	1052	1025	1024	247	735	782	781	780	246
.....	783	1051	1025	1024	247	735	782	781	780	246

六	七	六	四	二	四	六	六	六	四	四	一
557	790	490	321	174	320	597	556	489	369	319	10
昭和5年5月(2)日	昭和5年5月1日	昭和5年5月1日	昭和5年5月1日	昭和5年5月1日	昭和5年5月1日	昭和5年5月1日	昭和5年5月(1)日	昭和5年4月(28)日	昭和5年4月28日	昭和5年4月27日	昭和5年4月26日
三二三	本二二六	機密一四一	機密公 三二五	一四七	公四二六	三一九	三一五	公四二二	公四二〇	公四一九	公二一九
在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在チハル清水領事より 幣原外務大臣宛	在牛莊荒川領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)
閩の動向に対し東北側は中立との危道豊など の内話につき報告	奉天最高法院東北分院長孔明炎の上訴管轄に 関する布告について	遼寧省警務処による機密保持のため閩東州出 身中国人の任用禁止令について	釐金等の内国課税廃止実施に關し国民政府監 視方奉天商工会議所決議について	ハルビン日本総領事館投石事件犯の中国側軍 警による逮捕について	満洲における徵稅猶予期間六カ月延長方宋子 文に申し入れについて	閩錫山による天津海関付加税差押え命令に關 する各国公使との会谈について	閩側外交処への各国の対応振りにつき報告	宋子文が東豫丸武器輸送事件で執つた日本側 態度に対し蔣主席より感謝表意申出の旨等語つ たことについて	綿糸統一税については税率と形式が問題なる も中双方折會う趣旨で交渉進行方宋子文と の会谈について	滿洲において輸出付加税即時導入せざる旨宋 子文諒解について	中国内生産貨物の鉄道運賃差別待遇につき王 外交部長に交渉方訓令
.....	975	641	436	246	435	778	731	640	478	434	12
.....	975	641	436	246	435	778	731	640	478	434	12

六	三	一	五	一	六	二	二	一	二	二	七	七	一	六	二	六	二	六	四	
559	195	14	394	13	606	182	181	12	180	179	823	850	11	605	178	604	177	603	323	
昭和5年5月20日	昭和5年5月18日	昭和5年5月15日	昭和5年5月15日	昭和5年5月14日	昭和5年5月13日	昭和5年5月13日	昭和5年5月9日	昭和5年5月9日	昭和5年5月9日	昭和5年5月9日	昭和5年5月9日	昭和5年5月9日	昭和5年5月8日	昭和5年5月8日	昭和5年5月8日	昭和5年5月7日	昭和5年5月7日	昭和5年5月7日	昭和5年5月6日	
一九九	一九	二九	公五一〇		四〇四	二八	機密五二九	二六	一八七	一六〇	三三		公四六八	公四七二	一五九	三三一	五九	二二三	公四五一	
在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東宇佐美領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	西通商局第一課長より 谷亜細亞局第一課長宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林田村総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在香港吉田総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣 会談 汪中国公使	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在ハルビン八木総領事宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	
関税協定が満鉄の課税上の特権並びに材料関税免除等に影響を及ぼさぬよう留意方について	税関自ら又は外国銀行による徴税は列国側上好都合につきしかるべく中国側と応酬方訓令	ハルビン日本総領事館投石犯人の我が方引き渡さば方重交渉と事件当日の同館警備状況	ハルビン日本総領事館投石犯人の我が方引き渡さば方重交渉と事件当日の同館警備状況	閣の関税差押え命令不遵奉の場合税関長を免職する旨の朱外交処長の言明について	山西側による天津税務司罷免への対応などに関し宋財政部長との会談要旨報告	鐵道運賃差別について王外交部長も行き過ぎの措置と談話について	汪中国公使の帰国挨拶に際し日本の漸進的对中国政策と義和団賠償金問題に関する会談要旨	香港より広東沿岸諸港への密輸取締りのためメイズ総税務司が香港政庁と商議開始との新聞報道について	間島方面中国側各団体の国民政府に対する吉敦鉄道敷設請願の結果について	ハルビン日本総領事館投石犯人引き渡し方覚書手交について	日本側のハルビン日本総領事館投石犯人引き渡し要求は不当との中国側回答について	ハルビン日本総領事館投石事件当日の同館警備状況につき報告	ハルビン日本総領事館投石犯人を中国側が審理処分するは当然との鍾特派員談について	沈鴻烈司令に天津行船舶臨検を命じたとの王外交部長の賞書手交について	在満領事会議開催について	西原借款問題が立法院で問題化した故実質的債務整理を行うことに王外交部長と意見一致について	中国側の吉会、吉長両鉄道接続問題善処方要請に対する我が方対処方につき請訓	中国税関の取締りによる朝鮮人密輸業者死傷事件発生を契機とした朝鮮人の中国海関出張所襲撃事件について	南京側による船舶臨検要請に張学良は応ぜずとの東北海軍司令部黄參謀長代理の談話について	
737	265	17	507	15	786	252	251	14	250	249	1027	1026	1053	14	13	784	248	784	783	442

三	五	三	二	二	五	六	五	一	二	四	四	五	五	七	一	五	二	六	七	
197	400	196	85	86	399	491	398	16	84	325	324	397	396	791	15	395	183	560	836	
昭和5年6月6日	昭和5年6月5日	昭和5年6月5日	昭和5年6月4日	昭和5年6月4日	昭和5年6月4日	昭和5年6月3日	昭和5年6月(1)日	昭和5年5月31日	昭和5年5月31日 6月2日 6月10日	昭和5年5月31日	昭和5年5月30日	昭和5年5月30日	昭和5年5月29日	昭和5年5月28日	昭和5年5月27日	昭和5年5月26日	昭和5年5月24日	昭和5年5月(24)日	昭和5年5月(21)日	
三一	機密公 一〇九	二九	幣原外務大臣より 在安東森岡領事より	幣原外務大臣より 在吉林石射総領事宛(電報)	公五七三 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	機密公 二二三 在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	公五五三 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	本機密 一六二 在チチハル清水領事より 幣原外務大臣宛	付記 作成年月日不明 間島五・三十事件に対する京城地方院予審調抜萃	五四 幣原外務大臣より 在天津田尻総領事代理宛(電報)	公五四六 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	公五四八 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	公五三六 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	機密七五四 在上海重光総領事より 幣原外務大臣宛	西通商局第一課長より 谷亜細亞局第一課長宛	機密公九二 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	一七二 在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛	三七九 在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	四二六 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	
在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在安東森岡領事より	幣原外務大臣より 在吉林石射総領事宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在チチハル清水領事より 幣原外務大臣宛	付記 作成年月日不明 間島五・三十事件に対する京城地方院予審調抜萃	幣原外務大臣より 在天津田尻総領事代理宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在上海重光総領事より 幣原外務大臣宛	西通商局第一課長より 谷亜細亞局第一課長宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	
安東海関長の密輸取締り規則制定方要請に對す我が方対処法につき意見具申……………266	宋財政部長による債務整理問題の三段階審議案に對し西原借款を含めた一括整理につき説明文について……………515	安東海関長より密輸取締りにつき我が方に協力方要請について……………265	中国側と連絡協調をとりつつ朝鮮人共産党取締り上万人を期すべき旨訓令……………101	間島地方における治安維持に關し我が方と連絡協調しつつ万全を期すよう中国側当局に申し入れ方訓令……………101	宋子文の債務整理大綱案は西原借款に對する輿論の喧しき折から同案による外解決の途なきと思考するにつき折返し請訓……………513	遼寧外交協會の排日通達に對する商務会の態度について……………641	債務整理問題並びに通貨統一問題解決のため日本より顧問推薦方に關する宋子文談話について……………513	チチハル領事の在滿領事會議議題提出について……………21	間島五・三十事件における各地情況について……………90	輸出附加税徴収は七月一日開始に決定との宋子文談話報告……………443	國民政府による銀價回復は期待困難について……………443	債務整理の對象より西原借款除外との宋子文談話に對し中国の對外信用回復の上からも同借款解決方必要なる旨注意に對して……………511	債務整理資金の分配については西原借款問題を浮上させるため一九六〇年償還を中途に内債共々整理の方針なる旨の宋子文意向に對して……………511	上海特別区地方法院に於ける日本人を被告とする訴訟受理について……………976	在滿領事會議提出の本省諮問事項および説明案……………18	財政顧問ヤングと會談の際、天津海関差押問題が障害との認識で意見一致並び西原借款は他の借款と一括解決方を説明に對して……………507	「哈爾濱總領事館投石犯人引渡要求ニ關スル件」……………253	中国側に對するハルビン日本總領事館投石犯人引き渡し要求継続および犯人釈放の際逮捕方に關し請訓……………252	地方的外交事務は外交処で処理すべき旨の閣の訓令について……………737	楊文書局長が國民政府紀念週で日本の「支那」国号使用を批難に對して……………1041

六	二	四	四	一	五	二	一	二	一	五	二	三	四	四	四	三	二	六	四	六	七	二	三	
607	90	331	330	19	402	185	18	89	17	401	184	200	329	328	327	199	88	562	326	561	792	87	198	
昭和5年6月16日	昭和5年6月15日	昭和5年6月15日	昭和5年6月14日	昭和5年6月14日	昭和5年6月14日	昭和5月6日14日	昭和5年6月13日	昭和5年6月13日	昭和5年6月12日	昭和5年6月12日	昭和5年6月12日	昭和5年6月11日	昭和5年6月11日	昭和5年6月11日	昭和5年6月10日	昭和5年6月10日	昭和5年6月10日	昭和5年6月9日	昭和5年6月(8)日	昭和5年6月7日	昭和5年6月7日	昭和5年6月6日	昭和5年6月6日	
二一一		公五八九	四〇	四二七	公五八八	七三	機密公八八		機密六六二	公二六四	一九二	機密二二七	通一機密 一八八	公五八六	三一	機密二二六		公五四五	一一四	機密一四三	一五		三二	
別電	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 幣原外務大臣宛(電報)	在新民府福井分館主任より 幣原外務大臣宛	在間島岡田総領事宛	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛	在間島岡田総領事宛	幣原外務大臣より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛	在青島川越総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在杭州米内山領事代理より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	
閩の訓令大要	六月十六日発在天津田尻総領事代理より幣原外務大臣宛第二一二号																							
788	787	106	447	447	26	517	255	24	103	22	516	254	273	446	445	444	269	267	102	738	444	738	102	266

六	六	六	一	六	一	五	六	一	一	二	七	五	三	二	六	四	四	四	六	四	六	一	七	五																			
614	613	612	24	492	23	405	611	22	21	186	851	404	201	91	610	335	334	333	609	332	608	20	824	403																			
昭和5年6月20日	昭和5年6月20日	昭和5年6月20日	昭和5年6月19日	昭和5年6月19日	昭和5年6月19日	昭和5年6月19日	昭和5年6月19日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月18日	昭和5年6月17日	昭和5年6月17日	昭和5年6月17日	昭和5年6月17日	昭和5年6月16日	昭和5年6月16日	昭和5年6月16日																			
公六一四	公六一三	一一一	機密二一九	機密公 二五七	四一	公六一一	公六〇六	機密公 二五八	機密公 四五一	機密六七七	午字二二七	亜一機密 五八	亜二機密 三四六	二	四三八	公六〇四	公五九七	四六	公六〇二	公五九五	四三七	機密二四〇	機密公 一八	亜一機密 五七																			
幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国矢野公使館書記官宛(電報)	在鐵嶺近藤領事より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛	在ハルビン八木總領事より 幣原外務大臣宛	汪中国公使より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛	幣原外務大臣より 松田拓務大臣宛	在間島岡田總領事より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛																			
对中国債権者組合委員設置に関する規約案および代表への指図案の送付について	天津海関問題に対するこれまでの英国側態度および各国領事館による付加税供託案につき英国公使より内務省に付加税供託案につき石炭付加税問題により日本の満洲権益が損なわれぬ様メイズ総務司に申し入れについて	シンブソンによる税関執務開始に対し日英より北方側へ注意喚起方メイズ総務司より要請について	石炭付加税問題に対してあくまでも実力阻止で臨むべき旨意見具申	石炭付加税問題につきメイズ総務司より差し当たり現状維持の旨回答について	供託輸出正税払い戻しにつき間島の交渉経過をみて当方で交渉をすすめる旨について	天津海関接収に関する米仏蘭公使などの会谈要旨報告	間島地方の我が方警官増員必要との同地視察中の林奉天總領事意見具申	平北知事に対し密輸取締りに協力するよう朝鮮総督府より訓令ありたき旨依頼について	中国側債務整理大綱案に対する我が方の意向申進について	汪公使提出の義和団賠償金返還協定草案に不同意の旨回答	中国側のハルビン日本總領事館投石犯釈放の経緯について	吉林總領事の在滿領事会議議題提出について	長春領事の在滿領事会議議題提出について	宋財政部長より天津海関接収への対策として天津港の封鎖、天津以外の港における徴税案提示について	海関金単位制導入ならば関税の自然増収と合わせ債務整理計画に銀価下落の影響少ないと観測について	吉海、吉敦兩鐵道連絡対応策につき請訓	スウェーデン製マッチのダンピングによる東北マツチ業界最近の実情に關し報告	鐵嶺領事の在滿領事会議議題提出について	天津海関接収に關し関係国と共同して山西側の反省を促しその次第を南京側に通報方訓令の天津輸出入貨物に対する天津以外での徴税は二重課税を引き起すにつき關係國領事館への供託案とり進め方意見具申	国民政府による天津海関一時的封鎖命令の公告について	対中国債権者組合委員設置に関する規約案および代表への指図案の送付について	日本漁船は公海上で操業し何等中国漁船を妨害していない旨外交部へ回答について	安東領事の在滿領事会議議題提出について	天津海関問題に対するこれまでの英国側態度および各国領事館による付加税供託案につき英国公使より内務省に付加税供託案につき石炭付加税問題により日本の満洲権益が損なわれぬ様メイズ総務司に申し入れについて	シンブソンによる税関執務開始に対し日英より北方側へ注意喚起方メイズ総務司より要請について	石炭付加税問題に対してあくまでも実力阻止で臨むべき旨意見具申	石炭付加税問題につきメイズ総務司より差し当たり現状維持の旨回答について	供託輸出正税払い戻しにつき間島の交渉経過をみて当方で交渉をすすめる旨について	天津海関接収に関する米仏蘭公使などの会谈要旨報告	間島地方の我が方警官増員必要との同地視察中の林奉天總領事意見具申	平北知事に対し密輸取締りに協力するよう朝鮮総督府より訓令ありたき旨依頼について	中国側債務整理大綱案に対する我が方の意向申進について	汪公使提出の義和団賠償金返還協定草案に不同意の旨回答	中国側のハルビン日本總領事館投石犯釈放の経緯について	吉林總領事の在滿領事会議議題提出について	長春領事の在滿領事会議議題提出について	宋財政部長より天津海関接収への対策として天津港の封鎖、天津以外の港における徴税案提示について	海関金単位制導入ならば関税の自然増収と合わせ債務整理計画に銀価下落の影響少ないと観測について	吉海、吉敦兩鐵道連絡対応策につき請訓	スウェーデン製マッチのダンピングによる東北マツチ業界最近の実情に關し報告	鐵嶺領事の在滿領事会議議題提出について	天津海関接収に關し関係国と共同して山西側の反省を促しその次第を南京側に通報方訓令の天津輸出入貨物に対する天津以外での徴税は二重課税を引き起すにつき關係國領事館への供託案とり進め方意見具申	国民政府による天津海関一時的封鎖命令の公告について
797	796	794	32	642	32	524	793	30	29	255	1054	521	275	107	791	450	449	449	790	448	788	27	1029	518																			

六	六	二	七	六	六	二	六	六	六	六	六	六	六	一	二	六	六	六	一	四	六	六	一	
629	628	93	837	627	626	187	625	624	623	622	621	563	620	27	92	619	618	617	26	336	616	615	25	
昭和5年6月26日	昭和5年6月26日	昭和5年6月25日	昭和5年6月24日	昭和5年6月24日	昭和5年6月24日	昭和5年6月23日	昭和5年6月23日	昭和5年6月23日	昭和5年6月23日	昭和5年6月23日	昭和5年6月23日	昭和5年6月(23)日	昭和5年6月22日	昭和5年6月21日	昭和5年6月21日	昭和5年6月21日	昭和5年6月21日	昭和5年6月21日	昭和5年6月20日	昭和5年6月20日	昭和5年6月20日	昭和5年6月20日	昭和5年6月20日	
一一六	一七四		公信八六九	公六五五	四六二	機密六九四	二五七	二五二	四五八	公六三七	公六三五	二六九	公六三一	八一機密合 八三一	六二八	二四三	公二七五	機密六一一	公二七三	公六一五	二三五	四二		
幣原外務大臣より 在中国矢野公使館書記官宛(電報)	在英国松平大使より 幣原外務大臣宛(電報)	齋藤朝鮮総督より 幣原外務大臣宛	在上海重光総領事より 幣原外務大臣宛	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	別電 六月二十三日発在天津田尻総領事代理より 右領事団より外交団への意見	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在間島岡田総領事宛	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	
中国側と運賃協定並びに連絡運輸会議開催を希望するとの満鉄側の意向について	ベル税務司による天津税関の閉鎖およびこれに対する措置につき報告	天津税関閉鎖などに関する会談の際宋財政部長より我が方による南北幹旋方要請について	石炭付加税問題解決の旨安東税関長等へ内訓発出方総税務司に申し入れ訓令	間島総領事の在満領事会議議題提出について	南京側の天津税関閉鎖には不同意とともに山西側の行動も不承認の旨南京側に申し入れ方訓令	天津海関問題に関する領事団会議の開催について	シンブソン、ベルの相互撤退、付加税の外国銀行預託の妥協案につきイングラム英国公使と協議について	我が方警官の増員は大局上不可につき中国側当局を鞭撻しつつ治安維持方訓令	鉄道運賃差別には九力国条約を開示して交渉方訓令	シンブソン、ベルの相互撤退、付加税の外国銀行預託の妥協案につき宋財政部長との会談について	時局に対する東北側の中立的態度につき王家楨の談話について	イングラムに対し日英共同して南北双方説得継続につき申入れについて	南北妥協案中の付加税外国銀行預託案につき宋財政部長との会談要旨報告	南北双方への関係各国申入れにつきランブソン英国公使へ提案について	山西側税関を黙認した場合の二重課税防止策に関する領事団より外交団への意見申入れ	山西側代理より幣原外務大臣宛第二五三号	山西側による税関事務開始に伴い領事館による代收停止について	中国側のハルビン日本総領事館投石犯釈放に対する我が方抗議と中国側回答	南北双方への措置に関する外交団会議における討議内容報告	シンブソンの罷免、内外債以外の外国銀行への預託が譲歩し得る最後案である旨の宋財政部長の談話について	日本が外交文書で「支那」国号を使用している事を批難する新聞論調報告	事件勃発の場合居留民保護および朝鮮国境治安維持の必要から朝鮮より間島地方に警官急派の用意ありとの報告	天津海関問題につきウエズレーとの会談要旨報告	宋財政部長内諾の妥協案をもってランブソン英国公使と協力の上閣側説得方訓令
816	814	108	1041	813	811	256	810	809	809	807	805	804	739	802	37	107	801	801	800	35	451	799	797	34

二	一	一	四	二	一	六	六	六	六	二	六	六	六	二	三	六	六	六	二	六	二			
98	30	29	370	97	28	637	636	495	635	96	494	564	634	95	202	493	633	632	631	94	630	188		
昭和5年7月7日	昭和5年7月5日	昭和5年7月5日	昭和5年7月4日	昭和5年7月4日	昭和5年7月3日	昭和5年7月3日	昭和5年7月3日	昭和5年7月3日	昭和5年7月2日	昭和5年7月1日	昭和5年6月30日	昭和5年6月28日	昭和5年6月28日	昭和5年6月28日	昭和5年6月27日	昭和5年6月27日	昭和5年6月27日	昭和5年6月27日	昭和5年6月27日	昭和5年6月26日	昭和5年6月26日	昭和5年6月26日		
	四五	二九一			四三	公二九〇	四九五	二九〇	機密六三六	公二八三	公六二二	機密六一八	一九七朝一	機密二三一		四七八	四八一	公二八六	四七二	一九四				
在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在華日本紡績同業会より 在中国重光臨時代理公使宛	在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛	齋藤朝鮮総督より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在広東須磨總領事代理より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 齋藤朝鮮総督宛	小村拓務次官より 吉田外務次官宛	在鉄嶺近藤領事より 幣原外務大臣宛	別電一 閩宛外交団申入れ案 二 六月二十八日発在中國矢野公使館書記官より幣原外務大臣宛第四八三三号 南京宛外交団申入れ案	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	
ハルビン日本総領事館投石犯八名の同地特別 地方法院における審理結果報告	閩側への妥協案説得につきランブソン英国公 使を鞭撻について	中国側当局による治安維持は困難との意見具 申	天津海関問題に関する幣原外務大臣と駐日英 国大使との会談要領通報	外交団会議における南北双方への申入案採用 について	外交団による南北双方に対する申入れ案につ いて	幣原外務大臣宛第四八二二号	幣原外務大臣宛第四八三三号	開原中国側特産商に対する日本側銀行団の対 応振りについて	朝鮮総督府に密輸取締り方協力につき移牒し た旨並びに新義州中国税関設置は反対の旨の 通達	当面は朝鮮総督府からの警官増派は不要と の回答	南北双方への申入れ案に関する外交団会議の 経過報告	鄧建設庁長による軍政状況報告演説の要領訳 報	遼寧金融委員会の金融維持辦法通牒について	中国側感情に拘らず朝鮮総督府からの警官増 員の要ありとの申し入れについて	天津海関問題未解決により我が方が受ける影 響について	葫蘆島築港開港式挙行について	外交団抗議文の南北双方へ通報について	外交団抗議文に関し大勢に順応して対処方訓 令	吉林省政府による城内満鉄公所敷地回収計画 について	吉林民政庁長に対する親中反日朝鮮人の陳情 について	不当課税の実例たる浙江省永嘉県綢布同業公 会来状につき報告	東北交通委員会で差別運賃実施準備中につき 九力国条約違反たるを指摘して実施阻止に努 めている旨について	吉敦鉄道では鉄道部および東北交通委員会の 訓令に基づきマツチについて運賃差別を実施 について	間島地方警備上緊急を要する場合に朝鮮側警 官応援に関して威北道知事との協定について
114	39	38	479	112	38	629	629	657	827	111	656	740	822	111	275	655	821	820	819	819	818	109	816	257

一	三	六	一	六	七	五	六	六	六	二	一	一	一	六	六	六	二	六	六	一	二	一
37	203	497	36	642	793	406	567	641	496	101	35	34	33	566	565	640	100	639	638	32	99	31
昭和5年7月14日	昭和5年7月14日	昭和5年7月12日	昭和5年7月12日	昭和5年7月12日	昭和5年7月(12)日	昭和5年7月12日	昭和5年7月(12)日	昭和5年7月11日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月10日	昭和5年7月9日	昭和5年7月9日	昭和5年7月9日	昭和5年7月9日	昭和5年7月8日	昭和5年7月8日
機密公 五一九	五五一	機密七五八	一六	三一五	九	公二九六	五二〇	五一九	機密公 三〇三	五四二	五四一	四八	五一八	一二七	一二六	公七二二	五二二	公二八九	九六〇	二九八	朝保秘	二九八
幣原外務大臣宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在ハルビン八木総領事より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在雲南橋丸事務代理より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在間島岡田総領事宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國矢野公使館書記官宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國矢野公使館書記官宛(電報)	幣原外務大臣より 在間島岡田総領事宛	幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	森岡朝鮮總督府警務局長より 有田亜細亜局長宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)
満鉄沿線では協定運賃により差別待遇を受けざるも北寧鉄道では差別運賃導入に付即時中止方交渉員に申し入れられたについて	中国側の区村制導入に伴う朝鮮人処遇状況について	膠濟鉄道以外でも運賃差別撤廃交渉方訓令	王外交部長の訓令によるとして劉弁事務員よりカニンガム米國総領事に外交団申入公文返却について	太原會議における妥協案拒否の事情などに関する朱外交処長との會談につき矢野書記官報告	中国側当局に対し十分な隱忍を以て間島地方の居留民保護および權益擁護を囑るべき旨訓令	外交団抗議文は利害關係国を代表してオランダ公使より發送されたものとして中国側に対処方訓令	北方各派代表顔合せに矢野書記官など日本側も出席との情報について	北平政府樹立などに関する朱外交処長とランブソン英國公使との會談について矢野書記官報告	吉林省政府の吉林省城内満鉄公所の商埠地への撤退方要求について	鐵道差別運賃は膠濟鉄道以外一月より実施しているため延期の訓令をなさずとの胡世沢回答について	威北道知事との協定は非常時の準則として現地限りの一時的打合せとするようにとの訓令	スウエーデン系日本人マツチ会社のダンピング商策取締り措置方に関し請訓	閩による妥協案拒絶後の英國側の消極的態度に鑑み我が方善後策につき請訓	北方各派會合に出席は招待にて何等政治的趣旨の會談に非ざるが中国側政客の利用に嚴重注意しおることについて	債権者との話し合い資料として中国側債務整理支出金に関し見当付き次第回電方亜細亜局長より要請	八月一日以降中国人と外国人間の訴訟事件は当省高等法院で受理すべき旨照會について	陸新天津海關監督の就任挨拶について	四洮鉄道の東北交通委員會命による国内品優遇運賃策実施について	哈大洋暴落の内外商への影響について	日本警官の中国側押収武器回収に対する國民政府外交部より抗議につき重光宛報告	通化分館主任および赤峰領事館事務代理の在満領事會議議題提出について	
43	277	660	43	837	978	525	744	835	657	119	42	41	40	742	741	835	116	830	830	40	115	39

六	六	六	六	七	六	三	三	六	一	七	三	六	三	七	七	七	六	三	三	四			
661	660	659	658	852	499	209	208	498	38	825	207	644	206	795	794	643	205	204	371				
昭和5年7月28日	昭和5年7月28日	昭和5年7月28日	昭和5年7月28日	昭和5年7月26日	昭和5年7月25日	昭和5年7月25日	昭和5年7月23日	昭和5年7月22日	昭和5年7月22日	昭和5年7月21日	昭和5年7月21日	昭和5年7月18日	昭和5年7月18日	昭和5年7月17日	昭和5年7月16日	昭和5年7月16日	昭和5年7月15日	昭和5年7月15日	昭和5年7月14日				
二五二	二五七	二五六	二五四	文化一機密 八六	機密四五七	六一	七四二	機密公 三三四	五〇	機密二八三	五六八	五四二	三〇七	三	機密一七六	一三三	五六	五五					
在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 汪中国公使宛 付記 作成年月日不明 〔汪公使ノ提出ニ係ル日本ノ団体賠償金返還ニ関スル協定草案ニ対スル我方ノ見解〕	在青島川越總領事より 幣原外務大臣宛 付記一 三月十七日付在芝罘内田領事より幣原外務大臣宛機密公第八一號公信 付記二 〔第七東豫丸輸送武器ニ関スル件〕 〔第七東豫丸輸送武器ニ関スル件〕	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報) 付記 十月三十日付在奉天森島領事より谷亜細亞局第一課長宛書翰 本省宛電信の転送取扱いにつき注意されたき旨要請 東豫丸武器輸送事件に關し関係者取調中のこと ころ新たな事実判明について	在上海重光總領事より 幣原外務大臣宛(電報) 安東密輸問題が東北地方の我が方權益問題に 飛び火せぬよう取締り強化が必要との意見具 申	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛 機密公 三三四 在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛(電報) 在汕頭別府領事より 幣原外務大臣宛 在汕頭別府領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛(電報) 在長春田代領事より 幣原外務大臣宛 機密公 三三四	在汕頭別府領事より 幣原外務大臣宛 機密二八三 在汕頭別府領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報) 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報) 在中國矢野公使館書記官より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛(電報) 在雲南橋丸事務代理宛(電報) 幣原外務大臣宛(電報)	在雲南橋丸事務代理宛(電報) 幣原外務大臣宛(電報) 在局子街田中副領事より 幣原外務大臣宛 機密一七六	在局子街田中副領事より 幣原外務大臣宛 機密一七六 在雲南橋丸事務代理宛(電報) 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館書記官宛(電報) 幣原外務大臣宛(電報) 在中國矢野公使館書記官宛(電報) 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報) 在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報) 在安東森岡領事より 幣原外務大臣宛(電報)	船津在華日本紡績同業会総務より 在中國重光臨時代理公使宛 湖北省における不当課税に關し張関務処長に 抗議について 安東税関長の武装巡察隊設置計画に対する我 が方意向確認について 密輸取締り規則制定につき関東庁と協議あり たき旨意見具申 英国公使とともに閩の再考説得方訓令 華洋訴訟取扱いの変更により東拓関係債権回 收困難につき対処方請訓 中国側照会については放置し日本人が中国人 を被告として訴える場合は黙認方訓令 密輸取締り法規制定前における取締り強化策 につき意見具申 外交団抗議文首席公使より王外交部長へ直接 郵送について 中国海関と朝鮮人密輸業者の衝突事件に対す る国民政府外交部の抗議につき重光宛報告 台湾籍発動機船の中国南部沿岸への航行増加 の傾向に關し関係各公館で一定の方針のもと 取締り意見見上申について 吉長、吉海兩鉄道連絡協定の効果の実施に必 要な取決め事項につき請訓 スウェーデン製マッチのダイビング對抗策と して連合系日本人マッチ業者による東三省マッ チ同業連合会販売会社設立計画について				
851	851	850	849	1057	1055	670	665	664	284	282	282	663	47	1030	281	838	280	980	979	837	279	278	480

六	六	六	六	六	六	六	四	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	三	一					
695	694	693	692	691	690	500	337	689	688	687	686	568	685	684	683	682	681	679	680	678	677	210	39	
昭和5年8月(9)日	昭和5年8月8日	昭和5年8月8日	昭和5年8月8日	昭和5年8月8日	昭和5年8月8日	昭和5年8月7日	昭和5年8月7日	昭和5年8月7日	昭和5年8月7日	昭和5年8月(6)日	昭和5年8月6日	昭和5年8月5日	昭和5年8月5日	昭和5年8月5日	昭和5年8月5日	昭和5年8月4日	昭和5年8月4日	昭和5年8月3日	昭和5年8月3日	昭和5年8月(3)日	昭和5年8月2日	昭和5年8月2日	昭和5年8月2日	昭和5年8月2日
二五五	一〇四番機密	四二二	六〇二	六〇	一五九	普通八三六	七一普通	三〇九	公三二〇	五八〇	一五七	公八三六	二二〇	合三八四	二九二	二九二	二八五	二八五	二八六	二八一	九十一番機密	機密公	機密二五二	機密二五二
幣原外務大臣宛(電報)	在米出淵大使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)
漢口警備に関する米国側の態度について	漢口警備に関する日英協同方につき意見具申及び列国海軍協同動作に関する覚書準備について	上海駐屯の英兵百数十名が艦艇にて漢口向け出発について	長江筋警備についての英、米、仏側態度に関する情報について	長沙事件被害立ち会い調査の際注意すべき事項に関する訓令	漢口警備に関する日英協調方につき英国大使の申越しについて	取引建値の大洋票以外に変更禁止との警察総管理処命令について	輸出税の急激な増率は貿易上影響甚大につき実施前の猶予期間設定、契約済み品に現行税率適用配慮方訓令	何鍵の双方代表者による実地立ち会い調査を行なうとの意向につき長沙領事報告	特別陸戦隊の漢口移動に関しては今後事前協議方海軍省に申入れ置くことについて	英国は漢口の事態に鑑み派兵を敢て辞さざる方針にて目下関係国と交渉手配中等について	漢口方面における警備に協調行動方英国外務次官に申し出訓令	陳済棠による戦況報告および各機関職員に対する訓示について	長沙事件に関する我が在中国公使宛訓令の趣旨仏国側へ内報について	長江方面における警備艦配置現況について	現下中国の事態に鑑み漢口方面における兵力使用に關し日英協調方申入れについて	領事団会議において長沙事件に關する各人被害情報の交換並びに武漢防衛に關し協議について	長沙の奪回作戦に伴ない各国軍艦の攻撃援助方申入れに關する何鍵の副官長談話につき長沙領事報告	我が方初め各国領事館等の被害状況に關する長沙領事報告	艦に對し銃撃、これに對し各国軍艦の反撃について	我が上海陸戦隊の漢口分遣に關し海軍側より何等事前協議を受けた事実なき旨亞細亜局長宛電報	漢口方面における我が方留民保護並びに租界防備計画に關して	安東中国海關押収武器問題に關してギルクリッシュとの取決を一方的に破棄することには反対との意見具申	銀価暴落による營口取扱い貨物の増加について	幣原外務大臣宛
880	879	878	878	877	876	672	451	876	875	875	874	745	873	873	871	870	869	868	868	867	866	285	48	

六	六	六	六	六	六	六	六	二	六	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六		
714	713	712	711	710	709	708	707	706	104	501	796	705	704	703	702	701	700	699	698	697	696	
昭和5年8月15日	昭和5年8月14日	昭和5年8月14日	昭和5年8月14日	昭和5年8月13日	昭和5年8月13日	昭和5年8月13日	昭和5年8月13日	昭和5年8月13日	昭和5年8月12日	昭和5年8月12日	昭和5年8月12日	昭和5年8月12日	昭和5年8月12日	昭和5年8月11日	昭和5年8月11日	昭和5年8月11日	昭和5年8月10日	昭和5年8月(9)日	昭和5年8月9日	昭和5年8月9日	昭和5年8月9日	
公三二九	一〇七七 一〇七六	三四四	一四五	一〇八番電 一〇七番電	公七九五	公三二八	合四〇八	合四〇六	二九四 機密公	機密公	公三二六	公三二六	三三二	一〇七番電 一〇七番電	三二八	三二六	三一九	五八九	六三	公三二二	六二	
幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理、公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在英國松平大使外他十一公館長宛	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國矢野公使館書記官宛(電報)	米内第一遣外艦隊司令官より 小林海軍次官 永野軍令部次長)宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理、公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在上海重光總領事、在福州田村領事、 在廈門寺島領事、在汕頭別府領事各宛 (電報)	幣原外務大臣より 在間島龍山總領事代理より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在滿州里豐原領事館事務代理より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在吉林石射總領事宛	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理、公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	米内第一遣外艦隊司令官より 小林海軍次官 永野軍令部次長)宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在漢口坂根總領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理、公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在漢口坂根總領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在漢口坂根總領事宛(電報)
長沙事件の我領事館および居留民被害に關し 直ちに賠償するよう國民政府に申入れ方訓令	英國大使の漢口警備に關する日英協調方申越 しに對する我方回答書翰写送付について	長沙事件に關する我が方被害狀況につき長沙 領事報告	今回の共產黨実情調査は長江および華南沿岸 地方に限ることとしき趣について	長江方面に事件發生の際の對策に關し英國海 軍側と協定成立について	最近中國側において長沙事件に關し責任回避 の傾向あるにつき至急國民政府に同事件の賠 償要求申入れ置く様意見具申	項目に關し訓令	華中、華南地方共產黨実情調査に當り各地別 項目に關し訓令	桑島參事官等の華中、華南地方共產黨実情視 察に關し諸事便宜供与方訓令	吉林省当局による非帰化朝鮮人の国外放逐に 關する内訓について	滿州里における中國側邦人戸口調査に對し被 治外法權の立場より領事當館がかわつて処理 する旨通告につき報告	河合鈿太郎所有債權の保持方につき回訓	長沙事件に關する被害立會檢分書作成した旨 及び領事館を軍艦二見より水陸州に移したと の長沙領事報告	九江在留民保護および南潯鉄道保全につき充 分手段を尽すよう國民政府の注意喚起方訓令	漢口方面の警備に關する日英協調方につき英 國海軍側と協議中との米内司令官内話につい て	漢口方面の警備協調問題に關する各國海軍側 の態度について	何鍵軍が成寧、勇勝兩軍艦掩護の下、共產黨 軍に總攻撃をかけ長沙奪回を果たしたとの長 沙領事報告	漢口方面の警備に關する英國の日英協調方申出に對 する應對振りにつき訓令	長江方面の共產黨問題につき列國共同措置方 參加の意向に關し伊國公使館參事官談話につ いて	我が方の長江方面警備措置に對する中國側非 難について	長沙事件善後交渉方針決定の基礎資料に必要 のため被害狀況回電方を長沙領事宛に転電訓 令		
894	893	892	892	891	890	889	888	887	127	673	980	887	886	886	885	883	882	882	881	881	880	

六	七	七	六	七	六	六	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	七	六
728	828	827	571	826	727	726	408	725	503	570	724	723									
昭和5年8月30日	昭和5年8月29日	昭和5年8月28日	昭和5年8月28日	昭和5年8月28日	昭和5年8月27日	昭和5年8月27日	昭和5年8月26日	昭和5年8月26日	昭和5年8月26日	昭和5年8月25日	昭和5年8月24日	昭和5年8月23日									
三九九	三九七	二八四	六四〇	三九三	三九三	三九〇	七七八	支九八一	六三四	六七	三八一	公八四〇									
幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)
在漢口坂根總領事より	在天津田尻總領事代理より	在香港吉田總領事代理より	在南京上村領事より	在天津田尻總領事代理より	在漢口坂根總領事より	在中國重光臨時代理公使より															
減水期間における領事館および軍艦の長沙引揚げに關し英国領事内話につき長沙領事電報	中国側臨検捜査に關し当面の我が方対策について	中国南部沿岸方面の密輸取締りにつき台湾總督府より申し越しについて	何応欽長沙乗込み、江西省への軍隊移動に關する陳銳談話報告	シンブソン税務司が内外船会社および船長に對し必要の場合海關捜査隊及び警備司令部派遣員を乗船させ臨検に當らせる旨の回章配布について	長沙事件被害状況実地検分に関する中国側代表派遣につき長沙領事報告	長沙事件賠償要求方に関する英国側態度について															
904	1034	1032	748	1031	904	903	529	902	675	747	901	901									

六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	七	六
721	722	646	645	720	719	718	717	569	716	502	797	715									
昭和5年8月23日	昭和5年8月22日	昭和5年8月22日	昭和5年8月20日	昭和5年8月19日	昭和5年8月19日	昭和5年8月19日	昭和5年8月19日	昭和5年8月19日	昭和5年8月17日	昭和5年8月16日	昭和5年8月16日	昭和5年8月15日									
三七四	三七五	一四九	六一五	一八三	三六四	三六〇	公八一四	六二二	三五七	三〇八	五八五	七一									
幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)
在漢口坂根總領事より	在漢口坂根總領事より	在中國矢野公使館書記官より	在中國矢野公使館書記官より	在中國重光臨時代理公使より	在中國重光臨時代理公使より	在中國重光臨時代理公使より	在中國重光臨時代理公使より	在南京上村領事より	在漢口坂根總領事より	在滿洲里豐原領事館事務代理より	在吉林石射總領事より	在漢口坂根總領事より									
減水期における長沙の警備に関する米内司令官の内話について	長江方面における共産軍の來襲を未然に防ぎ果たの要する旨訓令																				
899	900	839	838	898	897	896	896	746	895	674	983	894									

二	二	六	二	六	二	二	六	五	五	五	六	七	六	六	三	一	六	五	
109	108	505	107	504	106	105	730	411	412	410	729	798	648	572	211	40	647	409	
昭和5年9月10日	昭和5年9月10日	昭和5年9月10日	昭和5年9月10日	昭和5年9月9日	昭和5年9月9日	昭和5年9月6日	昭和5年9月6日	昭和5年9月6日	昭和5年9月6日	昭和5年9月6日	昭和5年9月5日	昭和5年9月5日	昭和5年9月(5)日	昭和5年9月4日	昭和5年9月3日	昭和5年9月2日	昭和5年9月1日	昭和5年8月	
亜二機密合 一一九九九	亜二機密合 一一九九八	六六	高裁案	関機高収 三〇七九二	二六	六五	四二六	公八七九	公八七八	公八七四	四二二	二二七	六五七	四一四	条二機密 五一	公八一四	一五六	谷亜細亜局第一課長	
幣原外務大臣より 在奉天林総領事 在吉林石射総領事 在間島岡田総領事	幣原外務大臣より 在奉天林総領事 在吉林石射総領事 在間島岡田総領事	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	債務整理問題等に関する上海出張報告	
各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	各宛	530	
134	129	677	129	675	128	128	905	533	534	905	989	987	986	985	840	749	286	49	840
間島問題交渉において中国側に指摘すべき点 につき訓令	間島問題につき穏便な方法により中国側に反 省改悟を求めよう働き掛け方訓令	吉林省政府公報掲載の東北マッチ専売条例実 施に対し奉天総領事にて阻止方交渉につき請 訓	間島地方警察官の充実および配置に関する高 裁案	遼寧省政府による排日印刷物取締り令につい て	我が方抗議は従来同様の一般的に朝鮮人身分 に関する主張に限る旨訓令	中国当局による教化方面騒擾事件関係朝鮮人 銃殺に対し抗議申し入れにつき請訓	周沢春が湖南視察専員に任命されても省政府 は既定方針により調査するとの楊秘書談につ き長沙領事報告	宋子文は中原大戦終了後の対外信用拡大のた め米國資本家の財政援助とともに日本の援助 も期待する旨言明について	宋子文の企図する対外信用回復の動きに対し て同情表示が債務整理実現のため有利につい て	沙市に進攻の共産党軍は規模小にして漸次撃 退される見込みについて	宋子文と会談し濟南陥落等國民政府側に有利 に進行しつつある中原大戦の動向を捉え債務 整理交渉促進を図る意向について	東拓の登記済不動産抵当権抹消訴訟を中国法 院受理について	山西側政府成立以前に南北妥協計るべく朱外 交処長に督促につき重光宛報告	中央軍は瀋海、平漢兩線と鄭州および洛陽に 総攻撃開始する模様並びに他方長沙の現状に鑑 み共産軍に対しても守備を整えおる旨報告	北寧鉄道の機関車購入借款計画について	入江・ギルクリッシュ協定を遵守するよう回 訓	首席公使回答文案承諾の旨訓令	債務整理問題等に関する上海出張報告	

六	六	二	二	一	六	二	四	五	五	六	二	六	六	七	六	五	六	六	六
734	507	113	112	41	506	111	338	415	414	733	110	732	576	799	575	413	574	731	573
昭和5年9月19日	昭和5年9月18日	昭和5年9月18日	昭和5年9月17日 昭和6年1月7日	昭和5年9月17日	昭和5年9月17日	昭和5年9月16日	昭和5年9月16日	昭和5年9月16日	昭和5年9月16日	昭和5年9月16日	昭和5年9月15日	昭和5年9月15日	昭和5年9月13日	昭和5年9月12日	昭和5年9月12日	昭和5年9月12日	昭和5年9月12日	昭和5年9月11日	昭和5年9月11日
公三五八	機密公 六七七			機密公 四一八	暗二七	機密公 六六二	公九〇一	公九〇〇	公八九六	四四九	機密公 六六一	四四六	公八九二	機密公 六七九	六七五	公三五二	六七三	機密送 六三六	三七五
幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在奉天森島總領事代理より 幣原外務大臣宛	森岡朝鮮總督府警務局長より 有田亞細亞局長宛(電報)	在間島岡田總領事 在局子街田中分館主任より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在吉林石射總領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在吉林石射總領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在吉林石射總領事宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在漢口坂根總領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)
付記 九月十七日亞細亞局第二課 「帝國海軍ノ長沙冬營ニ関スル件」																			
910	909	678	156	154	51	678	152	452	539	538	537								
宋財政部長の赴濟は膠濟鐵道の実権東北側へ 報の付与に反対する韓復榘の説得にありとの情 報について	九江在留民保護および南潯鐵道保全方に関す る外交部回答文転達について	北方政府を事実上の政府として認め地方的問 題につき交渉を行うとのエブリング書記官の 意見について	債権者代表として債務整理非公式会談開始方 訓令並びに諮問に依るため東亜興業の内田 派遣について	閻錫山主席就任に伴う北方側との連絡経費捻 出につき請訓	河合鈿太郎所有權保持取計い方について再考 究の必要ありとの意見具申	我が方の山西側援助説に關し事實通報方要請 ………	至急損害額調査方を要求の際周沢春曖昧な応 答振りにつき長沙領事報告	中国側による逮捕朝鮮人銃殺に關する我が方 抗議に對し国籍問題は忌避したき旨の施主任 私見について	中国側の我が艦船射撃事件に對して今後一括 抗議方法を採りたきことについて	宋財政部長が對外信用回復、財政再建のため 関稅率の改正、債務整理を行うにつき日本の 好意的考慮を期待と述べた旨について	輸入稅率改訂は日中関稅協定を尊重する内容 にて立法院通過次第これを実施する旨の張福 運関務処長内話について	朝鮮人共產黨員処罰方に關する吉林省政府訓 令について	東北マッチ専売條例阻止方嚴重交渉並び同条 例実施に對するスウェーデン側意向等内査方 訓令	東北交通委員會の四洮鐵道日本人従業員淘汰 策について	延辺居住朝鮮人による自治促進会の成立事情 について	中国側当局の朝鮮人処遇に關する朝鮮内新聞 報道の影響について	吉林省政府の通報令により遼寧省政府管下各官 署二反日宣伝方訓令の趣について	長沙在留民の冬季減水期間保護に關する海軍 側意向について	

五	六	二	六	三	七	六	二	一	六	六	六	六	六	二	六	五	六	六	七	六	六	七
417	509	116	741	212	854	740	115	42	578	577	739	650	738	114	649	416	737	736	762	735	508	761
昭和5年9月26日	昭和5年9月25日	昭和5年9月25日	昭和5年9月25日	昭和5年9月25日	昭和5年9月24日	昭和5年9月24日	昭和5年9月23日	昭和5年9月23日	昭和5年9月23日	昭和5年9月23日	昭和5年9月22日	昭和5年9月22日	昭和5年9月22日	昭和5年9月21日	昭和5年9月21日	昭和5年9月21日	昭和5年9月21日	昭和5年9月20日	昭和5年9月20日	昭和5年9月19日	昭和5年9月19日	昭和5年9月19日
公三六八	四五〇	合四六四	九七	九二	六八九	四六二	五五六 二機密	公九二九	四四七	四四五	四六〇	四三三	公九二五	公九二二	四二九	公九二四	公九二二	公九一九	公九二一	五〇五 普通公	三五二 機密公	公九〇三
幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	在奉天森島總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在吉林石射總領事、 在奉天林石射總領事、 在ハルビン八木總領 事各宛(電報)	幣原外務大臣より 在漢口坂根總領事宛(電報)	幣原外務大臣より 在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	吉田外務次官より 小林拓務次官宛	幣原外務大臣宛(電報)	在奉天森島總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在米國出淵大使より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)
十月一日までに債権者会議開催不可の場合 を期限内開催に形式を整えるよう訓令	金商工総会長に対しマッチ専売実施計画に対 しスウェーデン側と円満妥結方途懇について	中国当局の朝鮮人苛酷取締りに関する過剩報 道の統制方訓令	長沙事件損害額の算定方につき注意について	入江・ギルクリッシュ協定の事実上の無効化 を因る措置として密輸品を中国側に渡すとの 重光宛報告	英国公使が義和団賠償金返還に関する公文交 換を了したとのヒューレットの談話について	長沙在留外人の損害額調査に関する何鍵の外 交部宛公文並びに省政府・外交部間往復関係文 書の概要につき長沙領事報告	中国側の苛酷な朝鮮人取締り振りにつき石射 吉林総領事通報	四洮鉄道借款利子引下げ問題など東北問題に 関する王家楨との会談について	東北軍による京津方面接収情況に関し榮臻軍 事庁長の談話につき報告	張学良の関内出兵に至る経緯並びに真相など に関する劉光の内話につき報告	天津海関問題に対する奉天側の意向に關し ンブソン、グリアンソンおよびビールとの会談 要旨報告	長沙在留民保護に關し米内司令官と協議につ いて	被捕朝鮮人銃殺報道に關し朝鮮半島内対中感 情悪化に伴い在京城總領事より中国人居留民 保護方要請について	十月一日の債務者会議開催までに宋子文との 間で債務整理の非公式交渉進捗方曾宗鑑に申 し入れについて	東北軍の天津制庄に伴う天津海関の状況につ き報告	長江一帯における共産党活動状況に関する桑 島參事官調査報告	その後の情勢緩和により冬季減水期の長沙引 揚げ未決定との英国公使説明について	王外交部長より治外法権撤廃交渉等の開始を 督促について	中国共産軍の外国軍艦砲撃問題に対する米國 國務省の意向について	満州里における中国側戸口調査要求に対し再 反駁について	治外法権撤廃交渉の早期開始を求める王寵惠 との会見報告	
541	682	158	919	286	1059	918	157	52	754	753	915	842	914	156	841	539	912	911	937	910	681	936

六	六	六	二	七	六	五	六	七	五	五	二	二	六	六	六	五	二	五	二	六	二	六	
654	580	512	122	763	653	422	652	800	421	420	121	120	651	742	579	419	119	418	118	511	117	510	
昭和5年10月3日	昭和5年10月2日	昭和5年10月2日	昭和5年10月2日	昭和5年10月2日	昭和5年10月(2)日	昭和5年10月2日	昭和5年10月(2)日	昭和5年10月1日	昭和5年10月1日	昭和5年10月1日	昭和5年9月30日	昭和5年9月30日	昭和5年9月30日	昭和5年9月30日	昭和5年9月30日	昭和5年9月30日	昭和5年9月30日	昭和5年9月29日	昭和5年9月29日	昭和5年9月27日	昭和5年9月26日	昭和5年9月26日	
四五四	機密七八一	七四	四六三	公九五四	四五三	公三七六	四五二	機密二六二	公三七四	公九九九	機密公 四三〇	一四六	四四九	四六九	九二	公三七二		九四二	一三三	機密三一六	無号	四五三	
幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	
在天津岡本総領事より	在天津岡本総領事より	在吉林石射総領事より	在奉天林総領事より	在中国重光臨時代理公使より	在天津岡本総領事より	在中国重光臨時代理公使より	在天津岡本総領事より	在局子街田中副領事より	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より	在長春田代領事より	在間島岡田総領事より	在天津岡本総領事より	在漢口坂根総領事より	在芝罘内田領事より	在中國重光臨時代理公使宛(電報)	在天津岡本総領事より	在中國重光臨時代理公使より	在奉天森島總領事代理宛(電報)	在奉天森島總領事代理宛(電報)	在奉天森島總領事代理宛(電報)	在奉天森島總領事代理宛(電報)	
閣接収の動向について	東北側の天津国民党部に対する態度について	マッチ専売に関するスウェーデン側東北代表と中国側との妥協交渉について	朝鮮人共産党員取締り強化が一般朝鮮人を含む弾圧とならざるよう中国側に申し入れについて	英国側は治外法権問題で一貫した態度をとるや不明につき注意が必要との意見具申	王樹常東北第二軍長による天津海關監督署など各機関の接収について	債務整理に対する宋子文等の誠意ある態度を幸い従前からの趣旨にて交渉努力方訓令	シンプソン狙撃され危篤について	外交部命令により華洋訴訟は地方法院で受理の旨延吉県長より回答について	宋子文の公文に九月二十九日の会合を正式債権者会議とする等の三点を含ませ発表差し控えしむるよう訓令	九月二十九日の宋との会合を第一回債権者会議としその際中国側と公文交換を行うことと債務整理の催促可能と思考するにつき請訓	吉林省政府の朝鮮人に対する告論文について	中国当局の朝鮮人取締りに対する延辺民衆大会決議について	張学良との会談を口実に我が方の援助を得て現地位保持せんとするシンプソンの言動について	何鍵が長沙事件に關し正式に遺憾の意表示のため来館したとの長沙領事報告	劉珍年と東北側との提携成立との観測について	見合せ方訓令	間島問題並びに朝鮮人帰化問題に關する協議会第一回記録	間島問題交渉を迅速に開始方訓令	新開閣関係者に報道内容に対する注意方警告した旨通達	錦州在留日本人の動向と中国官憲による日本商不正業者取締状況について	宋子文が債権者会議延期の交換公文案提示について	張学良の反対により見合せとの張群内話について	
846	755	687	167	938	845	547	845	995	546	545	165	164	844	920	755	544	159	543	541	159	683	158	683

六	六	六	二	六	六	二	二	二	六	二	四	一	六	六	二	二	二	七	七	二	二	二	二
745	583	517	143	516	582	142	141	140	515	139	340	46	744	581	138	137	136	765	764	135	134	133	132
昭和5年10月17日	昭和5年10月16日	昭和5年10月16日	昭和5年10月16日	昭和5年10月16日	昭和5年10月16日	昭和5年10月15日	昭和5年10月15日	昭和5年10月14日	昭和5年10月13日	昭和5年10月13日	昭和5年10月13日	昭和5年10月13日	昭和5年10月13日	昭和5年10月12日	昭和5年10月11日	昭和5年10月11日	昭和5年10月11日						
五五七	二六八〇ノ二 関機高収	二六七八ノ二 関機高収		七五五	一六六	一四七	一六七	四八五	四八〇	四八〇	公九九〇	四八一	四八八	五四五				七四四	二九五	四七八	一〇四五 機密	一〇四四 機密	一六二
幣原外務大臣宛(電報)	吉田外務次官他宛	中谷閣東庁警務局長より	幣原外務大臣より	幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在間島岡田総領事より	幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より	幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より	幣原外務大臣宛(電報)											
在中國重光臨時代理公使より	吉田外務次官他宛	中谷閣東庁警務局長より	幣原外務大臣より	幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在間島岡田総領事より	幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より	幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より	幣原外務大臣宛(電報)											
張学良の国民政府陸海空軍副司令就任通電について	張学良の国民政府代表張群の中国東北時事問題に 関する言動について	南京国民政府代表張群の中国東北時事問題に 関する言動について	大局上応援警察官の引き揚げ方必要との訓令	幣原外務大臣宛電報第一四三三号																			
921	759	698	193	697	696	758	192	191	190	695	453	54	921	757	188	188	187	940	939	185	182	179	178

七	三	二	六	二	五	五	五	一	二	五	二	五	七	五	二	五	七	七	七	七	七			
864	217	166	751	165	435	434	433	58	164	432	163	431	806	430	162	429	863	805	862	804	831			
昭和5年11月18日	昭和5年11月18日	昭和5年11月16日	昭和5年11月15日	昭和5年11月15日	昭和5年11月15日	昭和5年11月15日	昭和5年11月15日	昭和5年11月15日	昭和5年11月14日	昭和5年11月14日	昭和5年11月13日	昭和5年11月13日	昭和5年11月13日	昭和5年11月12日	昭和5年11月12日	昭和5年11月12日	昭和5年11月11日	昭和5年11月11日	昭和5年11月11日	昭和5年11月11日	昭和5年11月10日			
八三二					公一〇九五	公一〇九四	公一〇九一	六二	公一〇八三				公一〇八一	普通公 六二五	公四一五		機密公 一三〇六	機密五二一	機密五二二	機密 一一一	公信 一五六			
在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在外務省 朝鮮總督府	在間島岡田總領事より 幣原外務大臣宛	在間島岡田總領事より 幣原外務大臣宛	在間島岡田總領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在獨国外務大臣より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在獨国外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在米出淵大使より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在間島岡田總領事宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在廣東須磨總領事代理より 幣原外務大臣宛	在濟南西田總領事より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在ハルビン八木總領事より 幣原外務大臣宛	在上海重光總領事より 幣原外務大臣宛			
昌照報告について	第一回安東密輸入取締會議録	中国兵日本警官殺傷事件解決に関する会談録	中国兵日本警官殺傷事件解決条件合意成立について	華中淮南地方における共産党および共産軍の行動状況調査に関する復命書提出について	債権者列国会議開催状況につき報告	債権者列国会議に対する英国代理公使イングラムの外交部長宛書翰要領	中国兵日本警官殺傷事件解決条件合意成立について	独国会が係る東北鉄道敷設計画は満鉄孤立傾向あるにつき独国外務当局に申入れ方訓令	蔣介石主席が浜口首相の遭難に対し同情の意を外交部を経て発電方談話について	吉林省政府概ね合意の中国兵日本警官殺傷事件解決条件に関する対処方訓令	独国会が係る東北鉄道敷設計画は満鉄孤立傾向あるにつき独国外務当局に申入れ方訓令	日中間の交渉環境改善のため公使館南遷方意見具申	我が方提示の中国兵日本警官殺傷事件解決条件に対して吉林省政府概ね合意について	「ピットマン」委員会の对中国銀借款に関する新聞記事報告	治外法権、租界返還などの交渉にも積極的に応ずべき旨意見具申	吉林省政府提示の中国兵日本警官殺傷事件解決条件に対する我が方対処方訓令	債務整理列国会議開催に關し我が方方針につき通達	東拓対済南電話公司訴訟事件における工整会等の取締方陳市長約束について	霧社事件に対する長春地方朝鮮人の感想について	霧社事件に対する長春地方朝鮮人の感想について	霧社事件に対する長春地方朝鮮人の感想について			
1074	291	221	221	927	221	566	565	564	65	220	564	563	562	219	561	1002	559	218	557	1073	1001	1072	1000	1036

五	七	七	六	一	二	七	五	六	一	五	二	六	五	六	三	六	六	六	五	六	
440	866	865	527	60	168	832	439	526	59	438	167	525	437	752	218	588	524	587	436	586	
昭和5年11月25日	昭和5年11月24日	昭和5年11月24日	昭和5年11月24日	昭和5年11月22日	昭和5年11月22日	昭和5年11月22日	昭和5年11月22日	昭和5年11月21日	昭和5年11月21日	昭和5年11月21日	昭和5年11月21日	昭和5年11月20日	昭和5年11月20日	昭和5年11月20日	昭和5年11月20日	昭和5年11月19日	昭和5年11月19日	昭和5年11月19日	昭和5年11月19日	昭和5年11月18日	
公四二八	朝保秘 一五四〇	機密五四五	八一〇		機密 一一八四	公一一一五	公一一一四	機密公 一〇五九		公一一〇八		五六二	公一一〇七	公一一〇五		支三八四	機密公 七九三	機密 一〇一一	機密 一一二二	機密九二五	
幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	森岡朝鮮總督府警務局長より 小村拓務省朝鮮部長他宛	在厦門寺嶋領事より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館參事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	外務省 朝鮮總督府 協議	在中國佐藤公使館付武官より 杉山陸軍次官宛(電報)	在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛	在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛	在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛	在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛	在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛
付記 十一月二十四日 谷局長の債権者組合幹事会における右説明要領				付記二 十一月二十五日 〔暴動事件其ノ後ノ経過(要旨)〕	付記一 十一月二十四日 田中警察当局の懇談会における決議につき在間島岡田總領事宛報告	付記一 十一月二十四日 在局子街田中副領事より幣原外務大臣宛公信	張学良帰奉の機に鉄道交渉開始について	東三省と国民党との関係につき報告	イングラムが債務整理問題に関する英国の内 部事情談話について	中央政治会議で香港政庁・海関間の協定否決 について	日中警察の融和協調方各分館主任、各署長分 署長に訓達について	債務整理に関するウッドヘッドの論説をイヴ ニングポスト掲載について	南京における蔣介石・張学良の会談内容およ びソ連の中東鉄道交渉に対する態度変化につ いて	間島問題に関する打合わせ結果	英国公使一行中のコッケルが債務整理を中立 的委員会をもつて行いべき旨提案について	長沙領事送付の調査書中損害額の誤記、計算 上の誤り等訂正の上中国側に通告する趣につ いて	債務整理に関するウッドヘッドの論説をイヴ ニングポスト掲載について	南京における蔣介石・張学良の会談内容およ びソ連の中東鉄道交渉に対する態度変化につ いて	間島問題に関する打合わせ結果	英国公使一行中のコッケルが債務整理を中立 的委員会をもつて行いべき旨提案について	
572	572	1075	1074	229	227	225	1037	571	709	67	569	224	707	568	928	293	771	707	767	567	766

六	一	六	六	四	六	五	六	一	七	一	五	七	六	四	二	六	七	二	六	七	七	一
532	64	531	530	344	529	442	590	63	769	62	441	809	589	343	170	528	867	169	753	808	807	61
昭和5年12月2日	昭和5年12月2日	昭和5年12月2日	昭和5年12月2日	昭和5年12月2日	昭和5年12月1日	昭和5年12月1日	昭和5年12月1日	昭和5年11月30日	昭和5年11月30日	昭和5年11月29日	昭和5年11月29日	昭和5年11月28日	昭和5年11月28日	昭和5年11月28日	昭和5年11月28日	昭和5年11月27日	昭和5年11月27日	昭和5年11月27日	昭和5年11月26日	昭和5年11月25日	昭和5年11月25日	昭和5年11月25日
五七五	五七四	五七三	五七二	公一四九	機密公 五五四	一機密 一二六	八一六	八八一	五四四	機密公 八二三	二二六	公三〇八	八七五	公一一三九	四〇七	日商発	管一 八九六	公一一三一	機密五四三	機密五四二	公一一二三	公一一二三
幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館参事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京植村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛	幣原外務大臣より 在英国松平大使宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛	外務省 朝鮮総督府	郷日本商工会議所会頭より 幣原外務大臣宛	松田拓務大臣より 幣原外務大臣宛	外務省 朝鮮総督府	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在濟南西田総領事より 幣原外務大臣宛	在濟南西田総領事より 幣原外務大臣宛	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

昭和五年(一九三〇)十二月

713	70	713	712	457	711	575	772	70	948	68	574	1005	772	456	236	711	1085	235	929	1004	1002	67
領事館警察出張所立退きに関し遼寧省政府が退去要求已むを得ずと認めた旨王交渉員談話	張学良と孫科協議の上東北鉄道網に関する計画書作成との学良より張作相宛電報について	鄭家屯において同地駐在中島巡査に対し中国側官憲より省政府命令として立退き方言明ありたるについて	洮南官憲が我が同地出張所に出向き日本官憲の至急撤退方を求めたとの鈴木巡査報告について	新税率案の立法院通過と日本側意見が同案中に採用されていると諒解する旨の張福運書面について	吉林省政府による延辺各県に対する朝鮮人土地購入禁止訓令について	債務整理問題等に関する谷亜細亜局長とカニンガム参事官との会談について	蔣介石による北方交通財政諸機関の中央への返還に関する傳汝霖等より徐永昌宛電報働き掛け	北寧鐵路機関車設備短期交公債条例の立法院通過について	対日ポイコットを惹起しない様留邦人の動静並び報道振りに留意方について	吉林城内満鉄公所商埠地撤退方申し入れに対する我が方応酬振りについて	英国側に日本の方針を説明し列国協調をもつて債務整理推進説得方訓令	東拓の抵当権抹消訴訟に対し意見具申	第一次国民政府会議における政治刷新案などに関する決議事項について	間島問題に関する外務省、拓務省、朝鮮総督府第二回協議会	霧社事件の経緯について	日本商工業会議所による東北の日本側産業保護必要との建議提出について	間島問題に関する外務省、拓務省、朝鮮総督府第一回協議会	霧社事件の経緯について	間接損害の過少見積額訂正の上中国側へ通告について	日中間の民刑事件に際し中国人が被告の場合地方法院への提訴が多くなりつつある状況報告	高等法院が東拓対濟南電話公司訴訟事件の第一審仮執行判決を取消通達について	鉄道借款・債務整理問題などに関する満鉄による調査活動には注意を要する旨意見具申

三	六	五	三	六	四	三	六	六	六	七	六	一	一	六	六	一	四	二	六			
221	539	443	220	754	346	219	538	537	536	770	535	67	66	591	534	65	345	171	533			
昭和5年12月6日	昭和5年12月6日	昭和5年12月6日	昭和5年12月5日	昭和5年12月5日	昭和5年12月5日	昭和5年12月5日	昭和5年12月4日	昭和5年12月4日	昭和5年12月4日	昭和5年12月(4)日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月3日	昭和5年12月2日			
一一八〇	五八五	公二一七四	一〇二	公二一六八	公二一六四	一〇〇	五八四	五八一	五七八	公一一五六	機密三二三	機密公 五六一	機密五二一	八一九	五七七	公一一五二	公四四四	機密五〇八	機密五〇八			
幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在局子街田中副領事より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在鐵嶺石塚領事館事務代理より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館參事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	朝鮮總督府 拓務省 外務省 協議	在鐵嶺石塚領事館事務代理より 幣原外務大臣宛			
在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在局子街田中副領事より 幣原外務大臣宛	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛	在鐵嶺石塚領事館事務代理より 幣原外務大臣宛	在中國矢野公使館參事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	朝鮮總督府 拓務省 外務省 協議	在鐵嶺石塚領事館事務代理より 幣原外務大臣宛			
安東海關所持棍棒奪取事件に対する外交部 抗議の意図に関する張福運談および宋子文と 問題の地方的解決方打合について	安東海關所持棍棒奪取事件に対する外交部 抗議の意図に関する張福運談および宋子文と 問題の地方的解決方打合について	英国は自国の对中国鉄道債権の確保を優先す るため債務整理自体には消極的について	安東海關中国人外勤員スト継続について	安東海關中国人外勤員スト継続について	新税率案の内示は不可能なるも我方計算方法 を採用と張福運が堀内に談話について	安東中国海關長より我が方警察の取締りに関 し抗議について	東三省の外交・交通および財産権の国民政府 への移行に関する張・蔣協議結果につき邢士 廉の内話について	東三省の外交・交通および財産権の国民政府 への移行に関する張・蔣協議結果につき邢士 廉の内話について	東三省の外交・交通および財産権の国民政府 への移行に関する張・蔣協議結果につき邢士 廉の内話について	治外法権交渉を日本側は故意に遅延させてい ると王外交部長非難について	張学良通令に基づく文武高等官の国民党入党 方吉林省政府訓令について	中国側鉄道の対滿鉄對抗策による長春駅営業 減収状況につき報告	鐵嶺地方における滿鉄付屬地境界問題の概要 について	返還強要について	遼寧省法規として東北樺子専売条例の発表に ついて	政治会議列席の張学良と鐵道問題など東三省 における協調につき会談について	中国側新税率案の内示と我方意見採用交渉方 訓令	間島問題に関する外務省、拓務省、朝鮮總督 府第三回協議会	遼寧省教育庁通達による中国学校の排日教育 について			
302	719	576	301	301	931	930	929	458	300	298	717	716	948	715	76	72	773	715	71	457	237	714

一	72	昭和5年12月12日	機密公 八九二	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	吉海・瀋海鉄道の運賃改定などにより満鉄に与える打撃甚大なる状況について	81
一	71	昭和5年12月12日		幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使、 在奉天林総領事宛(電報)	満鉄による鉄道問題交渉に対する我が方方針について	79
三	230	昭和5年12月12日	一一一	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	我が方安東密輸取締り規則制定に関する安東税務司の謝意表明並びに日本側警官増員要請について	310
六	593	昭和5年12月11日	公二三九六	在広東須磨総領事代理より 幣原外務大臣宛	陳銘枢による四全会議報告の訳報	774
二	172	昭和5年12月11日	機密公 八九〇	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	林土および臨江事件解決交渉再開について	241
三	229	昭和5年12月11日	公二二〇九	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	安東密輸防止策につき堀内・張協議内容につき報告	308
三	228	昭和5年12月(11)日	公二三〇六	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	国民政府財政部関係の問題は外交部を通さず重光・宋間で実際の解決を図りたい旨の中国側意向について	308
七	856	昭和5年12月(11)日	公二二〇三	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	王外交部長に義和団賠償金問題については何等回訓方子期しない旨回答について	1060
三	227	昭和5年12月10日	一一〇	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	棍棒奪取事件に関して安東税関側の有和的態度提示について	307
三	226	昭和5年12月10日	公二二〇四	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	安東密輸問題につき日中双方の友好的協力の了解決したき旨の張関務処長談について	306
三	225	昭和5年12月10日	一〇九	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	安東海関中国人外勤員スト解除について	306
一	70	昭和5年12月10日	五九一	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	打通線に対する抗議は東北鉄道の全般的調整交渉に悪影響を与える旨意見具申	77
一	69	昭和5年12月10日	五九〇	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	四洮鉄道より打通線連絡のための臨時弁法提示について	78
六	541	昭和5年12月(10)日	五三三	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	東三省権限の中央への統合に関する張学良の談話について	720
六	592	昭和5年12月9日	八二四	在中國矢野公使館参事官より 幣原外務大臣宛(電報)	張学良の中央統一への応対振りに関する高凌百より蔣宛電報について	773
三	224	昭和5年12月9日	公四四九	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	安東密輸取締りに関する我が方方針について	304
三	223	昭和5年12月9日	四〇	幣原外務大臣より 在安東米沢領事宛(電報)	安東密輸取締りに関し中国側に協調の精神で臨むよう申し入れ方訓令	304
一	68	昭和5年12月8日	公一一九〇	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	新輸出関税実施は一月一日との報道あり積出主義による猶予期間設定に付き確認方訓令	459
四	347	昭和5年12月8日	公四四七	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	四洮線経営などに関し宋財政部長と会談について	76
六	540	昭和5年12月6日	公信五三〇	在鉄嶺石塚領事館事務代理より 幣原外務大臣宛	遼寧省政府の朝鮮人に対する土地貸与禁止通令について	719
五	444	昭和5年12月6日	公一一八九	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	宋子文は西原借款問題に苦慮し日本側が新聞等に同借款の正当性を宣伝方期待について	576
三	222	昭和5年12月6日	九〇七	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	日本警官の安東海関員所持棍棒奪取事件に対する国民政府外交部の抗議につき重光宛報告	303

七	四	六	六	六	一	五	七	一	七	三	四	一	三	五	五	五	四	三	七	七	五	六	
811	372	545	544	543	75	450	772	74	810	233	349	73	232	449	448	447	446	348	231	771	833	445	542
昭和5年12月18日	昭和5年12月17日	昭和5年12月17日	昭和5年12月17日	昭和5年12月17日	昭和5年12月17日	昭和5年12月17日	昭和5年12月17日	昭和5年12月16日	昭和5年12月16日	昭和5年12月16日	昭和5年12月16日	昭和5年12月16日	昭和5年12月15日	昭和5年12月15日	昭和5年12月15日	昭和5年12月15日	昭和5年12月15日	昭和5年12月14日	昭和5年12月13日	昭和5年12月13日	昭和5年12月13日	昭和5年12月12日	昭和5年12月12日
九二六			六〇〇	五九九	五九八	公四五七		一八二二二	機密公 八五六	機密公 九〇三	九二二	第五九七	機密五〇二	公二二二八	公二二二七	公二二二四	公二二二〇	九二二	一一二	九一九	公二二一五		機密三九四
幣原外務大臣宛(電報)	田辺日華紡織株式会社々長談	森島守人より 守島亜細亞局第一課書記官宛(書翰)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣 汪中国公使 会談	中谷関東庁警務局長より 永井外務次官他宛	在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛	在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在牛莊荒川領事より 幣原外務大臣宛	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛
原則通過との情報について	十二月十七日の政治会議で外僑訴訟実施弁法	張学良に対する陰謀計画の殆どは事実無根に ついて	東北政務・交通兩委員会の取消し要請に学良 応ぜずとの邢士廉内話について	張学良が瀋陽に未帰来のため鉄道交渉開始で きずとの報告について	東北の政況に関し邢士廉の内話について	我が方債権額の解釈に関し大蔵省側と交渉中な るも債権総額の減額は支払延期によって対処 方谷亜細亞局長依頼について	漢口租界返還問題その他懸案について	南京政府による鉄道建設計画の大綱について	華洋裁判取扱変更に関し至急対応策決定のた め回示方稟請	安東密輸問題に関し国民政府の後援を求め る遼寧省外交協会請願電	民国二十年一月一日を以て厘金および厘金額 の税捐とその徴税機関を廃止し延期を認め ない旨宋財政部長通電について	密輸取締り方に関し安東市政籌備処による遼 寧省政府宛申請について	堀内・會宗鑑間において西原借款問題打開方 方について	債務整理問題に対し我が方としても債権額お よび利息の減額等努力方意見具申	宋子文より西原借款に対する緩和策として除 外、一律整理の建前で減額の二案を提案、後 者の案で誘導有和方について	宋子文重光間で西原借款問題打開について内 密に堀内會宗鑑間で共同研究方合意について	裁厘による各省財源不足は中央において収支 状況を斟酌の上補填する旨財政部の上申によ る行政院通令について	日本警官の中国人連行喚問問題に対する処置 には慎重を要すとの代理公使宛意見具申	領事裁判権撤廃弁法年内立案等との齊世英の 内話報告	密輸取締り調査のため台湾当局へ人員派遣方 につき宋財政部長より申し入れについて	遼寧省外交協会の日清戦争記念碑撤去運動に ついて	遼寧省外交協会の日清戦争記念碑撤去運動に ついて	
1009	481	723	723	722	85	583	950	82	1007	313	460	82	312	582	580	579	578	459	311	949	1038	577	721

四	四	三	六	六	四	一	四	七	二	七	七	一	三	一	四	四	三	七	三	六																							
376	354	239	549	595	375	81	374	776	173	815	775	80	238	79	353	352	237	857	236	548																							
昭和5年12月27日	昭和5年12月27日	昭和5年12月27日	昭和5年12月26日	昭和5年12月26日	昭和5年12月26日	昭和5年12月26日	昭和5年12月26日	昭和5年12月26日	昭和5年12月26日	昭和5年12月25日	昭和5年12月25日	昭和5年12月24日	昭和5年12月24日	昭和5年12月24日	昭和5年12月24日	昭和5年12月24日	昭和5年12月24日	昭和5年12月24日	昭和5年12月23日	昭和5年12月23日																							
公四七七	公四七六	四七		五四七	七三二	九四六	公一二七三	八三九		機密 一一四二	九四一	無号	機密五二〇	六一四	公一二六六	九四〇	一一六八		七一	一一四																							
幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)	幣原外務大臣より 太田閣東長官宛	在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛	在天津田尻総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)	在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國矢野公使館参事官より 幣原外務大臣宛(電報)	在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在大連木村理事より 幣原外務大臣宛(電報)	在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛	在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在上海重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)	在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)	付記一 十一月五日亞細亞局「団匪賠償金二関スル件」 二 昭和六年一月九日 一 文化事業三関スル第二回非公式意見交換ノ件	幣原外務大臣宛より 幣原外務大臣宛(電報)	在長春田代領事より 幣原外務大臣宛(電報)																							
北部東北における日中瑞マッチ販売協定会議 で成立した暫行的協定について	安東密輸取締り規則の内容につき拓務省と確 認の上同省より関東庁に対して指導ありたき 旨の安東領事より要請	東方文化事業、義和団賠償金返還問題に關す る第一回非公式意見交換覚書	地方財源補填策としては地租の整理および營 業税の実施によるとの宋財政部長通電につい て	厘金は四川省を除いて実施し補償税は相当遅 れて実施の予定との張関務処長堀内に談話に ついて	鉄道交渉などに関する張作相との会談につい て	安東海關員所持棍棒奪取事件に関する安東海 關監督から国民政府財政部および東北政務委 員会宛報告	張学良が東北問題に関する外務省協定案入手 との情報について	日中間の治外法権交渉進展中と胡世沢談話揭 載の新聞報について	司法制度運用上の欠陥に関する湖北高等法院 長の談話について	間島問題に関する外務省、拓務省、朝鮮總督 府第四回協議会議事録	治外法権問題解決に關し列国協調による対応 可能に思われる旨重光代理公使宛発電につい て	綿糸統一税に關する交渉は相当煮詰りたる状 況について	全国鉄道運賃會議は明年三月一日召集につい て	綿糸統一税導入に対する中国民族紡側の反対 陳情について	山西・西北軍の善後措置に關する協議決定に ついて	国民政府外交部密令による吉林省政府の日本 租界回収促進に關する資料収集報告方命令に ついて	安東密輸取締り規則公布について	裁厘に伴う補償税新設に際し条約問題等惹起 せぬよう国民政府に注意喚起方訓令	綿糸統一税急速妥協方のため華紡側に説示 方訓令について	726	317	1060	1062	1063	1064	318	462	463	87	319	88	954	1013	244	955	488	88	489	776	727	320	464	489

六	550	昭和5年12月27日	六二二	在奉天林総領事より	東北政況に関する劉哲の時局談について	728
四	355	昭和5年12月27日	公二二七九	在中国重光臨時代理公使より	新税率は十二月三十一日公表、二月一日実施とメイズ総務司が横竹に内話について	465
一	82	昭和5年12月27日	六二三	在奉天林総領事より	鉄道問題に関する蔣・張協議などにつき劉哲と会談について	88
一	83	昭和5年12月27日	公九二九	幣原外務大臣宛	北寧鐵路による通遠行貨物運賃引き広告について	89
五	454	昭和5年12月27日		谷亜細亜局長より	对中国債権取立金再投資案に関する大蔵省側意見書送付について	589
七	777	昭和5年12月28日	九五二	在南京上村領事より	王家楨は蔣・張間排日方針決定との情報が日本陸軍より出ていると非難について	956
四	377	昭和5年12月29日	公四七八	幣原外務大臣より	武居委員長より船津総務にも至急互譲交渉妥結方を電訓について	490
七	835	昭和5年12月29日	機密 一八二九	幣原外務大臣宛	中国沿岸での漁業問題は漸次先鋭化の状況報告	1039
四	378	昭和5年12月30日	四八	幣原外務大臣より	綿糸統一税については国民政府が課税強行の恐れもあるため中国側の主張を容れて近く契約締結の運びについて	490
五	455	昭和5年12月30日	公二二八六	在中国重光臨時代理公使より	对中国債権取立金再投資に関し意見具申	592
五	456	昭和5年12月30日	公二二八七	在中國重光臨時代理公使より	对中国政策については列国協調の限界を理解の上経済的・財政的な関係により宥和政策の展開必要な旨意見具申	594
四	356	昭和5年12月31日	公二二九三	在中國重光臨時代理公使より	厘金廃止に合わせるため新輸入税率を急遽一月一日より実施することについて	465
五	457	昭和5年12月31日	公四八一	幣原外務大臣より	列国協調等との兼ね合いも有り債務整理問題解決後公使館南遷問題再考方訓令	598
四	379	昭和5年12月31日	七五	太田関東長官より	綿糸統一税の課税対象地域および徴税機関につき照会	491